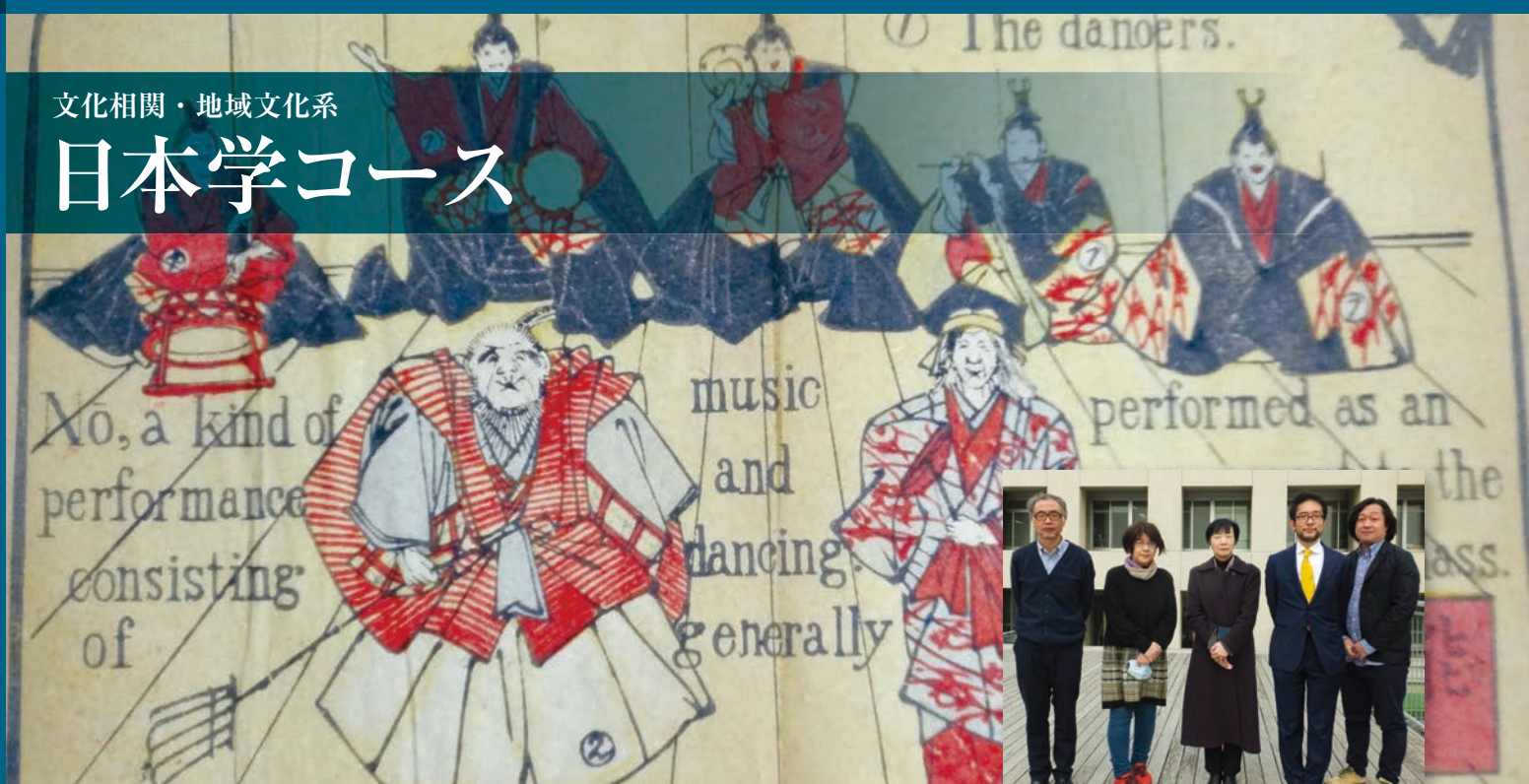


# 日本学コース



日本学コースでは、世界の多様な文化の中で日本文化を相対化しつつ、日本という地域における人間の営みを、文化の面から明らかにします。文学・芸術・宗教・思想などの文化や社会に関する古代から現代にいたるきわめて広範囲の諸問題に取り組み、共に研究し学んでいこうと考えています。

日本の文化や社会を深く理解するためには、古文書解読や資料調査を求められることも多いのですが、そのための専門的な能力を高める機会も提供しています。通俗的な日本論に惑わされることなく、高度の専門的技量と学問的能力をもって日本の文化や社会を論じられる人材を育てることを目指しています。

**進路実績** (前期課程) 関西学院大学職員、船井電機、アップオン、NEXCO中日本、コウキ商事、兵庫県立高校教諭、初芝学園中学・高校教諭ほか。

(後期課程) 学芸員(芸北民俗芸能保存伝承館、高知県立歴史民俗資料館、茶道資料館、平和祈念展示資料館)、兵庫県庁職員、国立公文書館、高校教諭(群馬県立高校、私立灘中学・高校)、神戸大学百年史資料室、桃山学院大学国際教養学部准教授、上海外国語大学日本文化経済学院准教授、関西学院大学言語教育センター朝鮮語講師、吉林大学外国語学部日本語学科講師など。

**在籍学生数** (前期課程) 7名  
(後期課程) 4名

**論文テーマ例** (前期課程) 「職員会議の変化と1980年代」「神戸市の男女共同参画事業と少子化」「三島流兵法書にみる村上水軍の「軍楽」」「但馬城崎「温泉時縁起」の研究」「18世紀初頭の華道の思想」「『今昔物語集』の楊貴妃説話の典拠をめぐって」「対外宣伝雑誌における日本芸能のイメージ」「靖国神社問題を再考する」「Made in Italy' in Contemporary Japan」「戦後日本の『純潔教育』」「三島由紀夫の思想」「ホラーゲームにおける恐怖表現」「熊本藩の雅楽伝承」ほか。  
(後期課程) 「『日本霊異記』の冥界説話から見る冥界観の変貌」「囃子田の演技の実践に関する民俗誌的研究」「ドキュメンタリー映画における音」「米軍占領下沖縄における文化政策とラジオ」「移動する領主をめぐる説話の諸相」「近世藩儒の研究」「戦前の映像文化(幻燈・玩具映画・小型映画)の受容とその歴史の変遷」「新しい波」と1950年代のアヴァンギャルド芸術運動ほか。

## 所属教員の紹介

### 板倉 史明 教授 日本文化表象論特殊講義ほか

日本映画・映画学。映画学の方法論をベースにして、国際的かつ歴史的な視座から日本映画を研究しています。

### 長 志珠絵 教授 日本社会変容論特殊講義ほか

近現代日本の文化史、ジェンダー史。最近のテーマは戦争の記憶論、米軍占領下日本の文化研究。

新任教員2025年10月着任予定

### 昆野 伸幸 教授 日本語文化論特殊講義ほか

日本思想史。1920年代から40年代にかけてのナショナリズムについて、歴史意識や宗教といった視点から研究しています。

### 寺内 直子 教授 日本芸能文化論特殊講義ほか

日本伝統音楽・芸能論・民族音楽学。身体を用いて表現する音や芸能などに注目し、日本列島の文化を、アジアや世界の様々な文化との関連の中で動的にとらえます。

## 所属学生からのメッセージ

## 田中 やよいさん

(博士後期課程 3年)

大阪市立大学文学研究科前期博士課程修了

研究テーマ：1943年鳥取地震に見る災害アーカイブの近代史

私は、災害の記録がどのようにアーカイブ(保管、利用、伝達)されていくのか、1943年鳥取地震の事例を中心に研究しています。近年、大規模な災害の発生により、過去の災害記録が見直され、学際的に扱われています。そうした過去の災害記録は、「何を記録しようとしたのか」という点に、発災当時の社会状況などが反映されます。1943年鳥取地震はアジア太平洋戦争期に発生し、東南海地震(1944年)や三河地震(1945年)とともに「戦争に隠された」と評されてきました。私は、当時の社会における総力戦体制の影響に着目して、公文書や新聞、雑誌などの分析を行っています。そのことを通じて、災害アーカイブが社会との関係でどのように形成されているのか、検討していきたいと考えています。

進学にあたっては、いくつかの懸念がありました。大学院修了から数年経ち、研究テーマも新たに着手し始めたものであること、現住地と大学が離れていること(片道4時間程度)、就業していることなどです。受験情報を集めるなかで、こうした懸念について「どのようにすれば実現可能になるか」という姿勢で対応していただいたことや、研究科案内(この冊子です)でさまざまな立場の院生が所属していることを知り、この研究科を選びました。

研究テーマについては、当初、研究計画書を作成した時点では、展望できていない部分がありました。しかし、ゼミやコース指導を受け、ほかの院生の研究報告を聞く機会を得たことで、自分の研究テーマに対して多角的な視点を持つことができたように思います。通学には少し時間がかかるのですが、ゼミの日程や時間を調整することで、参加できています。

なお、2020年度は大学に行くことができませんでしたが、同期型オンライン形式で、ゼミ、コース指導、コロナムが実施されました。とくに、ゼミはオンライン化によって参加する機会が増え、論文指導や他の院生の報告を聞く時間があつたことで、孤立感なく研究を続けられました。学修環境の変化のなかで、大学院に所属していることを改めて意識した年になりました。

## 修了学生からのメッセージ

## 谷口 紗也さん

(2022年度博士前期課程修了)

研究テーマ：「世阿弥著『風姿花伝』における美学的キーワードの考察—英訳・日本語現代語訳比較を通じて—」

現在、シオタニ株式会社勤務



室町時代に能楽を成立させた世阿弥は、彼の人生のうちで20冊あまりもの能楽論書を執筆しました。私の研究テーマは、そんな世阿弥が現代に残した能楽論書のひとつである『風姿花伝』の翻訳比較から、世阿弥の美的キーワード「位」に関する解釈を考察することです。

この課題は野上豊一郎の「能の伝統的な研究は、外国人の眼を持って見直し、外国人の頭を持って考え直すところから始めなければならない」という主張から出発しています。また、誰かの言葉を自分の言葉で捉え直し、それらを出力する「翻訳」という行為には、異言語間では勿論、同一言語内での言い換えにおいても多かれ少なかれ翻訳者自身の解釈が織り交じるという特徴があります。これらのことから、『風姿花伝』に登場する美学的キーワードが海外の能楽論研究者にどのような解釈が成されているのか、また現代語訳と英語翻訳ではどのような差異があるのか、こうした疑問点を世阿弥能楽論である『風姿花伝』の現代語訳と英語翻訳を比較するという手法で調査していくことを目指しました。

大学院でのほとんどの講義は少人数制であり、ディスカッションやプレゼンテーション中心の能動的学習が魅力の一つだと思います。専門だけでなく国籍やバックグラウンドの異なる仲間と自身の研究テーマに絡めた議論を交わすことにより、充実した学生生活を送ることができました。

大学院でのほとんどの講義は少人数制であり、ディスカッションやプレゼンテーション中心の能動的学習が魅力の一つだと思います。専門だけでなく国籍やバックグラウンドの異なる仲間と自身の研究テーマに絡めた議論を交わすことにより、充実した学生生活を送ることができました。

## Q&amp;A

## 文学研究科の教育・研究内容との違いは何ですか？

国際的な視野から教育・研究を行っています。また、文学研究科では扱われることの少ない学際的、横断的研究分野や研究テーマを積極的に取り上げています。

## 松元 実環さん

(博士後期課程 3年)

神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了

研究テーマ：戦後日本の「性」教育



わたしは、戦後日本の性教育である「純潔教育」について研究をしています。敗戦とそれに伴う占領によって様々な新しい制度が作られる中で、特に子どもや若年層の性的逸脱を問題視して開始されたのが純潔教育です。その内容は現在の性教育の基礎となりつつも、より幅広く、時には実践的な側面を持つのが特徴です。

純潔教育に関する研究は、現在の性教育への関心を発端とするものが多く、加えて女性の人権問題への関心に基づくものも多く見られます。そこで、わたしは男性を対象にすることで、純潔教育をより体系的に捉えることを目指しています。具体的には、当時の教科書や教育雑誌などを集めたり、実際に純潔教育に関わっていた方にインタビューしたりすることで、これまであまり注目されてこなかった観点から研究対象を捉え直す試みを行っています。

大学院では、さまざまな専門分野の先生方の授業を受けることができます。さらに、日本学はコース発表の機会も多く、領域を渡って多面的なアドバイスを受けられるなどの充実したサポート体制が魅力です。また、そこで学ぶ学生の研究対象もさまざまであるため、自らの視野を広げながら専門性を高めていくことができる環境で、充実した研究生生活を過ごすことができています。

## 福島 可奈子さん

(2019年度博士後期課程修了)

ブリュッセル自由大学哲学・文学研究科修士課程修了

2018-2019年度日本学術振興会特別研究員 DC2

研究テーマ：戦前日本の映像文化史(幻燈・玩具映画・小型映画)

現在、日本学術振興会特別研究員 PD、武蔵野美術大学非常勤講師



現在わたしたちが当然のごとく毎日見る「映像」は、人々がいつ発見し、文化としてどう育んできたのでしょうか。戦後にテレビなどの電子機器が流通するまで、映像とは暗闇のなかに映し出す光のイメージでした。私が専門とするのは、日本人が西洋から輸入された様々な映像機器(光学装置)と出会い、自家業籠中の物とする明治時代から戦前までの映像文化史です。そのなかでも博士後期課程では、プロフェッショナルによる映画作品ではなく、無名のアマチュアや子供が家庭や集会などで楽しんだ映像文化を、三時代の流行—明治期の幻燈、大正・昭和初期の玩具映画、昭和初期の小型映画—から掘り下げて研究しました。それにより従来の映画史研究では見過ごされてきた、日本の映像産業文化の多様性と技術的な連続性を明らかにしました。

私の研究では膨大な史料の精査が必要であったため、ときには研究過程で五里霧中になることもありました。しかし日本学コースでは、少人数制に加えてコース発表の機会が多く、毎回様々な研究領域の教授陣から具体的なアドバイスが得られたため、狭隘化しがちな視野を正しながら研究テーマを深めていくことが可能でした。また学年ごとに段階的な論文の提出が必須であったため目標が立てやすく、博士論文完成に向けて着実に執筆することができました。また在籍中に、神戸大学の協定校であるパリ・ディトロ(第7)大学へ交換留学し、シネマテーク・フランセーズなど現地の博物館での調査や研修にも参加しました。日本とフランス、映像と他芸術との相関関係から、理論研究だけにとどまらない実践経験を積むことができたのも、国際文化学研究所・文化関連専攻・日本学コースならではの魅力だと思います。

博士号を取得した現在、私自身も学生を指導する立場です。これまでご指導下さった先生方のような確かな指導ができていくのか自問自答の日々ですが、博士後期課程で学んだ理論と実践が、現在の研究生生活の何より大切な基礎になっていることは間違いありません。

## 仕事をしながら教育課程を修了することができますか？

これまで在職中の院生に対しては、5、6時限目を開講するなどの対策を取ってきました。事前にコース教員と相談されることをお勧めします。なお、博士前期課程の学生の場合、長期履修制度を申請すれば、2年分の学費で最長4年まで修了年限を延ばせる場合があります。

# アジア・太平洋文化論コース



現代のアジア・太平洋地域は、経済や国際交流等の面で激しい変動を経験しながら急速に発展しています。その意味では今まさに地球上でも最もホットな地域の一つであると言えるわけですが、それらの表面的な発展の流れを追うのみではこの地域の持つ特質は理解できません。東アジアにせよ、東南アジアや太平洋地域にせよ、各地域が古くから保持してきた複雑きわまりない多彩な伝統というものがあり、その伝統がグローバル化の波をかぶりつつ変容してきた結果が、現在の姿なのです。したがって、この地域の特質を深く理解しようと思えば、社会構造、宗教、歴史、経済状況等々の諸方面から掘り下げた専門的な研究が不可欠となります。本コースでは、それらの専門的な研究視点、研究方法を多様な教授陣が様々な専門領域の授業で伝授し、指導する体制を整えています。

**就職実績** (前期課程) アジア・太平洋地域関連で活動している諸企業、諸団体等への就職が予想されます。最近の修了者の就職先例:八重洲出版、トランス・コスモス(株)。(後期課程) 日本での大学・短大・高専・各種研究所、企業などへの就職の他、留学生の場合には出身国での大学や企業における専門職への就職等も期待されます。最近の修了者の就職先例:中国・内蒙古大学専任講師。内蒙古師範大学専任講師。中国・北京外国語大学外国語学院専任講師。

**在籍学生数** (前期課程) 4名  
(後期課程) 0名

**論文テーマ例**

- バンコクの間層をデモに駆り立てた要因の研究—PDRC及びUDDにおける末端支持者の政治意識—
- インドネシアにおける大学生の恋愛と性をめぐる葛藤
- 国際交流活動と進路選択—東南アジア青年の船を事例に—
- アイヌ文化の表象と実践—白老町における文化活動を事例として
- 初期日豪関係の展開と日本イメージに関する歴史学的研究
- 明代(14-17世紀)の雲南麗江ナシ族・木氏土司
- 清末から中華民国初期の内モンゴルにおける近代学校教育の展開と知識人の輩出—ハラチン地域と帰化城トゥメド地域の事例を中心に—
- 清代内モンゴルにおける農地所有とその契約に関する研究—帰化城トゥメド旗を中心に—(第12回アジア太平洋研究賞受賞博士論文)

## 所属教員の紹介

### 伊藤 友美 教授 東南アジア社会文化論特殊講義ほか

フィールドワークの手法を中心に、タイを中心とした上座仏教圏の社会、宗教、女性などの分野を主として研究しています。

### 谷川 真一 教授 中国社会経済論特殊講義ほか

現代中国の政治と社会、国際関係などの分野を主として研究しています。

### 橋 誠 准教授 東アジア社会文化論特殊講義ほか

マルチ・アーカイバル・アプローチにより、近現代モンゴルを中心とした東アジアの政治外交、社会経済の歴史を主に研究しております。

### 貞好 康志 教授 東南アジア国家統合論特殊講義ほか

インドネシア現代史、華僑華人研究などの分野を主として研究しています。

### 深川 宏樹 准教授 オセアニア社会文化論特殊講義ほか

文化人類学、社会人類学、オセアニアの社会と文化、人間概念と社会性の研究などの分野を主として研究しています。

## 所属学生からのメッセージ

## DOU YUNHAO さん

(博士前期課程 2年)

華東師範大学歴史学部卒業

研究テーマ：「大躍進運動における大衆動員政策に関する研究」

私は、小さな頃からずっと歴史に興味を持ち、学部は歴史学部に進学しました。学部時代は、歴史学の授業を受け、毛沢東時代の中国に関心を持つようになり、それに緊密な繋がりがあられる大衆動員政策のやり方と効果について研究しようと、具体的な研究計画を立てる時に、本研究科の谷川先生の論文に大いに啓蒙され、アジア・太平洋文化論コースへの進学を決めました。

大学院の授業では、受動的に先生の話聞くのではなく、先生や他の学生と議論し、自分の疑問を投げかけ、自分の思想を述べるのが大切だと思います。授業では主に発表と議論が行われます。つまり、専門書・論文を読み、その内容を要約し、疑問点を挙げ、授業中に議論します。それを通して、批判的な思考力と問題意識を養いながら、研究論文の構造と研究のやり方も身につけます。

本コースでは、異なる研究分野の諸先生から、細かい指導を受けることができます。また、授業で先生と議論する機会も多く、社会学、人類学、歴史学、政治学など、様々な分野の考え方・研究方法に接触し、アドバイスがもらえ、多角的に問題を分析することができます。それがアジア・太平洋文化論コースの魅力だと思います。

## 張 徳陽さん

(博士前期課程 2年)

香川大学経済学部卒業

研究テーマ：「香港人のアイデンティティ変容に対する両文三語政策が与えた影響」



私は学部時代には経済学部で学んでいましたが、2019年の香港社会運動に大きな衝撃を受けたため、自分の専攻を地域活性化論から地域社会研究に変更し、運動のメカニズムを明らかにするため、それに関連する授業を中心に受け始めました。人種、民族、移住・移動、国家、性別、言語など、個人のアイデンティティを構成する主な要素の中で、特に個人のナショナルアイデンティティと国家の言語政策との関係に関心を抱き、ポストコロナ香港や戦後の台湾を研究対象として卒業論文の研究を始めました。その後、研究者への道を

志し、当時の指導教員と相談した結果、大学院に進学することを決めました。そして、数多くの大学院の中から、地域研究がご専門である真好康志先生のご指導を仰ぎたいと思い、神戸大学大学院を受験し、現在、真好先生をはじめとする本研究科の先生たちのご指導の下に研究を進めています。

私の大学院での学びは、学部時代の恩師の次のような言葉で特徴づけられていると思います。「生まれ育った場所から離れたことにより、これまで『当たり前』とってきた多くのことが、実は『当たり前』でないことに気付かされ、地域と社会を相対化して観察する視点を獲得することができる。」自分の出身地で調査を行っても、対象が言語・文化を共有する人々であっても、必ずしもスムーズに進むわけではありません。入学する前の去年3月には、香港国際空港で簡易な事前調査を行いました。予想以上に困難で、無力感を感じました。本研究科に進学してから、1年目の前期にはフィールドワークに関連する授業を中心に受講し、現地での調査を行う際の注意点を多く学びました。本研究科で培った知識を活かして、調査の計画を練り、修士論文作成に向けて調査・研究を進めていく予定です。最後に、本コース受験を検討している皆さんに、本コースでの充実した研究生活の機会があることを心から祈っています。

## 修了学生からのメッセージ

## 森田 理央さん

(2022年度博士前期課程修了)

関西学院大 国際学部卒業

研究テーマ：「北京学生運動における愛国主義」

現在、野村證券株式会社勤務

私は「真の中国に触れたい」という思いから、大学3年生のときに日本と歴史に関わりが深い吉林省長春にある吉林大に半年間交換留学をしました。実際に中国で生活していると、中国文化のみならず、中国の人々の寛大さや力強い姿に強く心を惹かれた一方で、日中の歴史が残した深い傷跡を経験することも多々ありました。帰国後、私は「中国愛国主義」の研究を志すようになりました。そして、社会学(中国・文化大革命)がご専門である谷川先生のご指導を仰ぎたいと思い、神戸大学大学院への受験を決めました。

私がアジア・太平洋文化論コースで学び得たことは、決して受動的に指導を受けるのではなく、自ら主体的に好奇心を追求することこそ、研究への情熱を燃やし続ける鍵になるということです。本コースの先生方は、厳しくも学生の熱意と意欲に真摯に向き合い、温かく支えて下さいます。これから本コースに入学される皆さんには、先生方とともに、自分自身の熱意をさらに高め、研究を深めていただきたいと思います。皆さんの神戸大学大学院での日々が、実りある時間となるように祈っています。

## 劉 燕さん

(2022年度博士課程後期課程修了)

大阪市立大学(現大阪公立大学)博士課程前期課程修了

関西大学博士課程前期課程修了

研究テーマ：「中国亡命知識人のライフ・ヒストリーとヒストリーの交差—外と内、境界・周辺—」  
現在、神戸大学などで非常勤講師、著述家

私は五十代で博士後期課程に入学しました。博士後期課程入学以前には、故郷の湖南省を離れてから日本やアメリカを遊学し、非常勤講師でフリーの著述家として、研究・教育・日中バイリンガルの翻訳や創作と、二足のわらじならぬ三足のわらじで、経済的に安定した基盤は確保されないものの、自由気ままに過ごしてきました。

何故、今さら博士号の取得を目指したか？ アカデミズムの学者気取りのつもりは毛頭なく、キャリア・アップに結びつくことも期待していたわけでもありませんでした。

その一因は、博士後期課程入学前、谷川教授から勧められたマックス・ウェーバーの『職業としての学問』の一文にありました。そこには、専門分野において「後々まで残る仕事を成し遂げ」るならば、「生涯に一度だけ、二度と味わうことのできない深い喜び」が得られるだろうと記されていました。この言葉が私の背中を押してくれました。

博士論文では、亡命により国家や民族という枠組みを超えることを余儀なくされた知識人が、各自のを越境させ、文化を国際化させるアクターとなっていることに着目し、激動の歴史に翻弄されながら真理の追究のために学問や言論の自由を求めて苦闘する亡命知識人の普遍的な存在意義を導出することを目指しました。どこに行くときも文献とパソコンを入れた数キロのリュックを背負い、幾つもの資料を精読し、世界各地にしている証言者に資料の内容を確認し、授業の合間、朝から晩まで細切れの時間に博論を書きました。

本学では異なる研究領域の諸先生から学際的で柔軟なアドバイスをいただくことができました。本コースでは、教授陣からの強力なサポートを得たのみならず、院生研究室において留学生や日本人学生の「学弟」、「学妹」との楽しい雑談により、生活や研究の苦楽を分かち合うこともできました。

無論、学問、そしてそれに基づく実践は、博士論文の提出で「修了」となるものではありません。これまでの研究の検証、それを行う自分自身をも省察し、さらなる知見の創出に努めたいと考えています。人があまり通っていない茨の道を歩いて行くのは案外おもしろいかもしれません。

## Q&amp;A

## 留学生や社会人入学の院生もいますか？

本コースでは日本人と留学生の両方がいつも多数在学しており、年度によっては、社会人入学・長期履修生の院生もいます。

# ヨーロッパ・アメリカ文化論コース



ヨーロッパ・アメリカ文化論コースでは、近代以降、世界の政治・経済・文化などで中心的な役割を果たしてきたヨーロッパとアメリカの社会と文化について、多様な角度から総合的に教育・研究します。これらの地域で発展した文化は世界へと広まりましたが、現在、批判的に再検討されていることは周知の通りです。それに加えて、最近では、欧米の中にありながら近代成立の過程で周縁にあった社会と文化に関する研究も進展してきています。このコースでは、以上のような成果を踏まえて、現代の我々の生活と意識に深く根付いているように見える欧米的な思考や価値観を再検討し、その21世紀における意義を探っていきます。歴史・言語・宗教・思想・文学・芸術・社会制度など、幅広い分野にわたって具体的な考察を積み重ねることで、いまだ知られざるヨーロッパやアメリカの深奥に迫りたいと思います。

## 所属教員の紹介

### 小澤 卓也 教授 ラテン・アメリカ文化交流論特殊講義ほか

ラテンアメリカ、とりわけ中央アメリカの近現代史が専門です。最近ではグローバルな歴史的視点に立ちながら、中米社会を大きく規定している民族問題や輸出作物生産文化の研究を進めています。

### 西谷 拓哉 教授 アメリカ言語映像文化論特殊講義ほか

文学と映画を中心として、アメリカ合衆国の多面的な文化状況や表現の独自性などについて研究しています。専門は19世紀中葉のアメリカン・ルネサンス期の文学ですが、小説の映画化という観点から両者のナラティブとしての特徴を比較することにも関心を持っています。

### 衣笠 太朗 講師 ヨーロッパ社会文化論特殊講義ほか

専門はドイツ＝中東欧境界地域の近現代史であり、主に現在のドイツ、ポーランド、チェコの境界に位置するシレジア（シュレージエン/シロンスク/スレスコ）における分離主義運動や住民移動について研究しています。

### 中村 麻美 講師 イギリス社会文化論特殊講義ほか

英語圏、特に英国におけるユートピア・ディストピア文学ないしサイエンス・フィクション（SF）を専門としています。研究関心はノスタルジア、ジェンダー・セクシュアリティ、ポストヒューマン哲学です。

### 深町 悟 講師 越境文学論特殊講義ほか

19世紀後半から第一次大戦ごろの英国近未来戦争小説（侵攻小説と私は呼んでいます）が英国内、あるいは海外でどのような影響を与えたかを研究しています。

**進路実績**（前期課程）琉球新報、大和証券、日立製作所、三田市役所、関西電力、時事通信社、在外公館専門調査員、東洋電機製造、大成建設、ニトリ、浜松市役所、クボタ、神戸大学大学院博士後期課程進学、明星産商、他  
（後期課程）静岡大学人文学部講師、佛教大学専任講師、神戸大学非常勤講師、神戸松蔭女子学院大学非常勤講師、大和大学非常勤講師、同志社大学非常勤講師、大阪市立大学非常勤講師、神戸大学国際文化学術研究推進センター協力研究員

**在籍学生数**（前期課程）6名  
（後期課程）4名

**論文テーマ例** グリム兄弟『ドイツ伝説集』、ウィリアム・モリス研究、『ハリー・ポッター』とヴィクトリア文化、アメリカのイタリア移民、ブロンテの自然観、I Love Lucy における視覚的ギャグの分析、ポルトガルにおけるミランダ語の成立、戦間期アメリカにおける平和主義、孤立主義、ポピュリズム、英国庭園研究、イーヴリン・ウォーの『プライズ、ヘッド再訪』、アメリカの移民政策と中国系移民の現状、リバタリアニズム、サモアの地域研究、阪急英国フェアの歴史研究、ジョージ・エリオット研究、他

## 修了学生からのメッセージ

## 王 芸萱さん

(2023 年度博士前期課程修了)

瀋陽大学日本語学部卒業

研究テーマ:「メキシコの対中国貿易赤字問題の分析検討—中墨貿易のさらなる発展に向けて—」



学部時代ではラテンアメリカ文化について触れたことをきっかけに、ラテンアメリカに魅力を感じるようになりました。とりわけラテンアメリカ地域において、ブラジルに次ぐ経済大国であり、アメリカの重要なパートナーでもあるメキシコに対しては、これまでのほとんどない認識の上に、新たな認識が生まれました。また、学部3年次に交換留学を経験したおかげで、さまざまな異文化の人と知り合っ、多文化共生の魅力をもっと感じることができました。そのため学部卒業後は、専門的な知識をより深く知りたいと考えて、国際文化学研究所のヨーロッパ・アメリカ文化論コースに入学しました。

このコースには、ヨロアメの政治、経済、文化など幅広い分野の講義や演習をカバーしています。授業では学生の積極的で自由な発言に重視します。さまざまな専門性をもつ先生たちは、学生の考え方を重んじながら専門的な指導を行い、学生の研究を暖かくサポートしています。また、多国籍の仲間とのコミュニケーションやディスカッションの場にも恵まれていて、学術的な交流だけでなく、視野を広げることもできます。

在学中は、コースが提供してくれる優れた研究環境を深く実感し、充実や成長を味わう日々を過ごしました。

## 高原 さよ子さん

(2023 年度博士課程前期課程修了)

研究テーマ:「福祉国家とリバタリアニズム—ロスバートの視点から—」

現在、株式会社鴻池組勤務



学部時代には、リベラリズムと保守主義が政党政治に与えた影響、アメリカにおける外交政策などアメリカ政治経済を学びました。学部3年次に学習を進めていくうちにアメリカの政治文化の源流にある政治思想、その中でもリバタリアニズムについて研究したいと考えるようになりました。そして、アメリカ政治思想史や政治理論を専門的に学ぶために神戸大学国際文化学研究所のヨーロッパ・アメリカ文化論コースに進学することを決めました。

このコースでは、アメリカの文化、政治、思想など幅広い分野の講義や演習を受講することができるため、研究テーマについて多角的に考えることができるだけでなく、ラテンアメリカやヨーロッパ地域などアメリカを研究するうえで理解不可欠な地域との関係を学ぶことができました。また、少人数指導の議論形式の授業が多いことから、積極的に自身の考えを発信する力を養うこともできます。国際文化学研究所で培った積極性は、授業内の発言だけでなく、就職活動でのグループワークや面接でも活かすことができました。ヨーロッパ・アメリカ文化論コースでの学びは、今後のキャリアにおいて重要な基盤になると考えています。

## Q&amp;A

## 社会人ですが、仕事をしながらの入学は可能でしょうか？

規定年限で修了を目指す場合、博士前期課程では少なくとも1年次においては週に1~2回以上の登校が必要ですが、「長期履修制度」を利用すれば最長4年まで修了年限を伸ばせますので、登校日と学期毎の履修単位をかなり少なくすることができます。また、博士後期課程の場合は、指導教員との相談により柔軟な受講が可能なお場合もあります。

## 外国語の知識はどの程度必要ですか？

英語の文献が読める程度の知識は必要です。どこかの地域に関することを専門的に研究する場合は、当該地域の言語の知識を持っている必要があります。前期(修士)課程の「キャリアアップ型プログラム」では、それほど高度な外国語力がなくても大丈夫でしょう。

## 石井 昌子さん

(2023 年度博士後期課程修了)

京都大学大学院文学研究科博士後期課程指導認定退学

研究テーマ:「ジョージ・エリオットのリアリズムと道徳観—シンパシーに乏しい人間の描写からの考察—」  
現在、同志社大学嘱託講師・京都教育大学非常勤講師

私の博論は、19世紀イギリスの代表的リアリズム小説家ジョージ・エリオット(1819-80)のリアリズムがこれまでの解釈と異なり、初期作品から後期作品に向けて進展していること、その背後には作者自身の道徳観の成熟があることを明らかにしました。

ヨロ・アメコースに入学する前の私は、研究は始めていたが博論の書き方が分からず、京都大学の非常勤講師として英語を教えていました。しかし非常勤講師も定年に近い頃、同じく文学を研究している友人から神戸大学大学院の国際文化学研究所では、コキアムやコース指導があつて段階を踏んで書き進めて行けるという朗報を得ました。そしてこれが私にとって文学研究者として生きていく最後のチャンスだと思いました。

忙しいヨロ・アメの先生方が、専門の違う論文に目を通してコメントを下さったことには本当に頭が下がります。コース指導は厳しいものですが、そのおかげで徐々に私の博論が意義のあるものへと発展してゆきました。とくに指導教員の先生には感謝しています。

博論作成に当たってもう1つ私の背中を押してくれたのは、海外のジャーナルです。私の博論の要となる議論は日本のジョージ・エリオット協会ではなかなか賛同が得られず、大いに困りました。しかしイギリスのジョージ・エリオット協会の機関誌に投稿したところ、当時の編集長で今の会長から、すぐにアクセプトのメールが届きました。「とても思慮深く面白い。ほかのメンバーも同感だろう」というコメントを得て私の博論は息を吹き返しました。

ヨロ・アメコースに集う学生の興味の対象は様々で、発表の場で彼らの多様な主張が徐々に洗練されてゆくのは面白く感動的です。博士課程前期2年もしくは後期3年の修業はきつけれど、努力すれば必ず成長が実感できます。

## 西田 悠さん

(2022 年度博士課程前期課程修了)

法政大学社会学部卒業

研究テーマ:「現代キューバの人種主義からみる貧困の再生産過程—人種差別の社会問題化への取組みとその困難性—」

現在、琉球新報社勤務



学部への入学以前に関心を抱いていたラテンアメリカの歴史・思想・現代社会の在りようについて、専門性を伴って探究したいと考え、本研究科への進学を決めました。学部では社会学的なモノの見方に魅了され、特に日本国内外で展開されるグローバル化が、多種多様な社会集団に対してどのような作用をもたらしているのかといった点について、幅広く関心を寄せていました。

本研究科では、国民国家や人種、ジェンダーなどに係る社会学的視座を基軸としつつ、歴史学・人類学・哲学あるいは社会思想といった研究領域を学際的に学びました。このような学問生活は、自らの社会的な立場性と研究対象であるキューバにおける人種—貧困問題を繰り返し往復して、オリジナルな研究を展開しようという目論みにおいて、非常に有効なものでした。

多種多様な専門的知識・技能の養成にご尽力いただいた教員方はもちろんのこと、本研究科であったからこそ巡り会えた仲間たちの存在についても、修了後の私の生き方を方向づける大きな要素となっていくと思います。

地球の反対側に位置するキューバ社会について探究しながらも、いまここで私が成すべきことは何かを考え続けたことが進路選択にも活き、最終的に本課程で経験したことのように意味を持たせることができました。

専門領域へのこだわりと学際的な広い関心をお持ちの方に是非お勧めしたい研究科です。

## 専門の先生がない地域や領域のことを研究テーマにすることはできますか？

ある程度柔軟に対応することができます。受験を考えている場合は、いずれかの教員と連絡を取って、具体的なテーマについて相談してください。

# 文化人類学コース



本コースでは、多様なテーマと地域を研究対象にする文化人類学の専門スタッフが、充実した教育研究カリキュラムを提供しています。今日の文化の諸問題は、グローバル化に伴うさまざまな文化と価値観の対立、分裂、統合と融和、生成と消滅といったダイナミズムを特徴としています。本コースでは、地に足のついた研究調査（フィールドワーク）から世界を見渡す広くしなやかな視点をもつことで、深い異文化理解をもとに多様な文化が対話可能となるような方法をともに考えていきます。文化をめぐる複雑な問題に積極的にとり組み、国際的に活躍する専門家、研究者をめざす学生、文化人類学の高度な研究を志す留学生も歓迎します。

コースの情報は、こちらからもご覧になれます。➔

<https://www.kobe-anthro.jp>



## 所属教員の紹介

### 梅屋 潔 教授 民族学特殊講義ほか

社会人類学、アフリカ民族誌、妖術・邪術研究、日本の民俗宗教、開発の人類学などの分野を主として研究しています。

### 岡田 浩樹 教授 民族誌論特殊講義ほか

朝鮮半島、日本を中心とした東アジア諸社会およびベトナム、植民地主義および近代化過程における家族、宗教の再編成、マイノリティと多文化主義、宇宙人類学などの分野を主として研究しています。

### 齋藤 剛 教授 文化人類学特殊講義ほか

社会人類学、中東民族誌学、人類学的イスラーム研究、モロッコ、グローバル化と宗教・民族などの分野を主として研究しています。

**就職実績** (前期課程) 南山大学(准教授)、奈良県立大学(専任講師)、京都産業大学(准教授)、多摩美術大学(助手)、北九州市立大学(特任教員)、総合地球環境学研究所(研究員)、広東貿易職業技術学校(講師)、中日新聞社、イオン、旭化成、東京三菱銀行、モバゲー、活水女子大学、韓国法務省、バンダイ、大阪府高校教員、青年海外協力隊(コストリカ派遣)、アビームコンサルティング、東京国際貿易、三菱総研 DCS、関西福祉科学大学、神戸松蔭女子学院大学(非常勤講師)、(株)富士ソフト  
(後期課程) 天理大学(専任講師)、立教大学(教授)、神戸大学(准教授、助教)、大阪観光大学(教授、専任講師)、島根大学(准教授)、武蔵大学(准教授)、法政大学(教授)、東京医科大学(准教授)、外務省(専門調査員)、立命館大学衣笠総合研究機構(専門研究員)、帝塚山大学(非常勤講師)、浙江大學(副教授)、大妻女子大学(准教授)、滋賀大学(特任准教授)、立命館大学(准教授)、国立民族学博物館(准教授)、武庫川女子大学(講師)、ケープタウン大学(客員研究員)、東京外国語大学(研究員、特任研究員)、神戸大学国際文化学術研究推進インスティテュート(学術研究員)、広島大学(教授)

**在籍学生数** (前期課程) 14名  
(後期課程) 13名

## 論文テーマ例 (前期課程)

カーゴカルト、観光、民俗芸能の伝承、ポストコロニアル、マルティカルチュラル・オリエンタリズム、中国の女性の地位、悪石島のボゼ、ローカル・ハワイアン、プリミティブ・アート、在日ベール人、映像人類学、クラ交易、バングラデシュのフェアトレード、国民文化と教育、在日コリアン、国際結婚、在日ベトナム人、奄美出身者同郷団体、文化遺産、伝統の創造、多文化共生、朝鮮族、映像、アイデンティティ・ポリティクス、ポピュラー音楽の表象、ジャマイカのペンテコステ教会、在米カリビアン、カーニバル、在米コリアン・アイデンティティ、ラストファリ運動、ジャマイカのエチオピア正統教会、キリスト教と文化の文脈化、日系アルゼンチン人、ドミニカ共和国野球移民、スポーツ移民とトランスナショナリティ、在米華人、エスニック・コミュニティとメディア、マルティレイシャル、在日ブラジル人、移民の子弟教育、メキシコ女性と住民参加型開発、カナダ先住民、ディアスポラ・アイデンティティ、日系ハワイ人、帰米二世、ヒスパニック、カリフォルニア州バイリンガリズム、限界集落

## (後期課程)

文化の真正性、ヴァヌアツ・アネイチュム、歴史人類学、難民、カレンニー、ホームステイ、在日ベトナム人、ケアと家族、朝鮮族村落変容、朝鮮族移民の女性化、華僑・華人、ベトナム観光、オーストラリア・アポリジニ、「問題飲酒」、先住民と非先住民、カリブ海地域、ジェンダー、男性性、ダンスホール文化、ダンスホール・ゴスペル、ポピュラー音楽、カリブソ、ソカ、ナショナル・アイデンティティ、人種と民族ポリティクス、混血の表象、当事者性、「オモニ」—韓国社会における「母性」とケア、マイノリティ、牧畜民ヒンバ/ヘレロの土地認識、台湾の伝統的首長「頭目」の現代的な姿

### 下條 尚志 准教授 現代人類学特殊講義ほか

歴史人類学、東南アジア研究、多民族・多宗教の混濁、河川・海域世界、移民、戦争・社会主義・市場経済化のなかの生き残りの術などを主として研究しています。

### 大石 侑香 准教授 社会人類学特殊講義ほか

生感人類学、環境人類学、人類史、生業、物質文化、先住民、シベリア民族誌、北極地域研究などの分野を主として研究しています。

## 所属学生からのメッセージ

## 眞明 夏三さん

(博士前期課程2年)  
立命館大学国際関係学部卒業  
研究テーマ：「ガーナの葬式」



私はガーナの葬式をテーマとして研究をしています。死という、人類に普遍的な事象ですがその在り方は実に様々です。ガーナの人々がどのような死生観に基づいて、どのような葬式をしているのか、文献調査やフィールドワーク(現地調査)をもとに研究していきたいと思っています。

私は学部時代に国際関係を専攻し、新卒で就職、1年半働いた後に退職しました。その後、青年海外協力隊に携わった中で、自分の価値観が必ずしも現地の人々に当てはまるわけではないと感じ、自分ではない人々の視点を知りたいと考え、文化人類学を志しました。文献を読み、先生方と話す中でガーナの葬式という研究テーマにたどり着きました。

大学院、そして文化人類学コースに入るということは、自分の面白いと思うことを突き詰められる環境に身を置くことだと感じています。授業だけでなく、読書会、個別指導などを通して、文献を読み、議論を深めます。特に合同ゼミという、コースに在籍する学生と先生方の全員が出席するゼミでは、毎週数名の学生が研究報告を行い、その発表に対して出席者からコメントがもらえます。合同ゼミは以後の研究の方向性を検討できる貴重な機会であるとともに、定期的に発表順が来るので、研究の進捗の1つの目安にもなります。

また、先生方、学生ともにさまざまな専門性を持つ人が集まっていることも特徴です。在籍する学生数は多いですが、誰一人として全く同じ研究をしている人はいません。授業や合同ゼミのコメント、さらに研究室での何気ない会話など、誰と話しても自分とは異なる視点を持っており、いろいろなところに研究のヒントが転がっています。

文化人類学コースにいる人と話していると、自分たちとは異なる文化、慣習、宗教など、「違う」ことを拒否するのではなく、面白い、なんでだろう、と深掘りしていく考え方をしている人が集まっていると感じます。また、研究では他の文化を見るだけでなく「自分たち」って何なんだろう、とも問いかけます。研究を進めていくと知らないこと、わからないことばかりで途方もない気分になることもありますが、先生方や他の学生とともに「違い」や「わからないこと」を面白いと思いつながりながら研究を進めていくことができます。

## 修了学生からのメッセージ

## 平野 智佳子さん

(2019年度博士後期課程修了)  
研究テーマ：「ポスト植民地状況を生きるオーストラリア先住民のアボリジナル・ウェイに関する人類学的研究—中央砂漠における飲酒をめぐる諸実践に注目して」  
現在、国立民族学博物館准教授



オーストラリア中央砂漠、どこまでも続く荒野に現れるアボリジニの小さなコミュニティが私の調査地です。そこでアボリジニたちと共に暮らしながら、規制下における酒の獲得、分配の方法を調査しています。

人類学的研究に不可欠ともいえるフィールドワークでは、自らの「常識」が覆される瞬間が度々訪れます。私にとってアボリジニたちの生活は驚きと困惑の連続でした。彼らと行動をともにしていると、従来のものの見方ではどうしても説明のつかないことがあると気づかれます。そうした違和感は、時として「分かり合うのは無理なのではないか」という苛立ちや徒勞感に結びつくこともありますが、簡単に手放してはいけません。なぜなら、それらが現地の人々の生きる世界を読み解くための重要な手がかりとなるからです。

大学院では、このフィールドワークでの発見を民族誌としてまとめていきます。先行研究の読解や整理、調査データの扱いや議論の展開の方法等、論文執筆の技術の習得は決して容易ではありませんが、先生方は根気強く指導してくださいましたし、院生仲間との交流も心の支えになるでしょう。論文執筆に並んで、研究生活では調査資金の獲得も大きな課題となりますが、日本学術振興会の特別研究員など競争的資金に関してコース内にしっかりとしたサポート体制が築かれており、採択実績も継続して出ています。

文化人類学コースでは数年間に渡る課程を修了した後、多くの院生がアカデミズムの世界に羽ばたきます。研究者として第一線で活躍される先輩方の背中を見て私も研究職を志しました。まだまだ駆け出しですが、院の扉を叩いた日の知的好奇心は衰えることなく、益々刺激的な毎日を過ごしています。フィールドで得られた知見から私たちの生きる世界を紐解くことに関心のある方はぜひ本コースの扉を叩いてみてください。皆さんと人類学の議論を交わす日を楽しみにしています!

## Q&amp;A

## 学部では文化人類学を専攻していませんが、大丈夫でしょうか。

必ずしも学部で文化人類学の専門コースにいる必要はありません。ただし、文化人類学についての基本的知識を身につけておくことよいでしょう。最近では手頃な入門書、概説書がふえていますので、まずはそれらを参考にし、所属する大学の文化人類学関係の講義・演習を受講することをお勧めします。大切なことは、明確なテーマを持ち、これを文化人類学の視点から考える姿勢です。

## 木村 彩音さん

(博士後期課程3年)  
研究テーマ：「オーストラリア先住民トレス海峡諸島民の混血と混濁性をめぐる人類学的研究」



私の先住民との出会いは、子どもの頃読んだ絵本でした。民族衣装を着て、動物や精霊と話し、自然と調和して生きる姿がとても印象的でしたが、将来自分が彼らの研究をすることになるとは思ってもみませんでした。私が研究対象としているオーストラリア先住民のトレス海峡諸島民は、風や波を読み、ジュゴンやウミガメを獲って暮らす海の民です。それだけ言うと、絵本と同じく自然と調和して生きる人びとのようですが、それは彼らの全てではありません。フィールドワークを通じて、彼らの人間臭さや近代に生きるたくましさに触れると、

自分の中の先住民像が偏ったものであったことに気付かされます。このように、自分の中の思い込みや常識が相対化されることこそ、現地の人びとと深く付き合うこと、そしてそこから彼らの世界を理解しようとする文化人類学の醍醐味だと思います。

文化人類学コースでは、国内外様々な場所をフィールドとする院生が集まり、人類学的思考の訓練を積んでいます。人類学を基本的な土台としつつも、それぞれ多様な分野、現象に関心を持っていて、互いに議論を交わし新たな知見に触れるのはとても刺激的です。

また院生は、そうして得た知見やフィールドワークの成果を、学会発表や論文投稿などを通じて積極的に発信することが求められます。本コースでは、それに必要な論文執筆や発表の技術、議論の深め方などを身につけるサポート体制が整っています。週に一度開かれるコース内のゼミでは、実際の論文の草稿を検討しながら院生同士で議論を交わすほか、コースの先生方全員から指導を受けることができます。先生方には様々な分野とフィールドのエキスパートが揃っており、多様な角度から根気強くコメント、指導をしてくださいます。こうしたプロセスを経て、博士後期課程の院生は博士論文の完成に必要な技術と思考力を身につけます。

研究を続けていくことは決して容易なことではありませんが、充実した研究環境はその継続を大いに後押ししてくれるものだと思います。私自身も、本コースの恵まれた環境と周囲の人たちに支えられていることを日々実感しています。

## 澤野 美智子さん

(2013年度博士後期課程修了)  
神戸大学文学部人文学科卒、韓国ソウル大学校社会科学大学院人類学科修士課程修了  
博士論文題目：「(オモニ)を通して見る韓国の家族—乳がん患者の事例から」  
現在、立命館大学総合心理学部准教授



私の研究テーマは、韓国の家族です。特に、乳がん患者さんたちが病気に対処するなかで家族とどのような相互行為を行っているのか、ということに注目して博士論文を書きました。現在はさらに、代替療法的な食餌療法、ケア、ジェンダーなどの問題へと広げて研究を進めています。

博士課程では、研究者としての心構えから論理的な文章の書き方、博士論文のアドバイスにとどまらず、将来就職したとき学生を教えるためのスキルに至るまで、長期的な展望を見据えたい指導をいただきました。指導教員以外の先生方に教えを請いに行くことも積極的の奨励される雰囲気ですので、ひとつの問題に対して様々な角度からご意見をいただくことができ、考えを深めることができました。

また、院生たちで行う研究会や読書会も、研究情報を交換したり学問的知見を深めたりすることとどまらず、研究上の悩みを共有したり互いにアドバイスをしあったりするうえでも非常に有意義でした。志願者の皆さんも、このような恵まれた環境を活かし、充実した大学院生活を送ってください。

## 指導教員以外に研究上あるいは論文の指導を受けたり、論文テーマが変わって指導教員の変更をすることはできますか？

教員全員の共同指導体制をとっており、指導教員以外からも指導を受けることができます。また、研究テーマを変更する必要が生じた場合には、所定の手続きを経て指導教員をコース内で変更することも可能です。



# 越境文化論コース



グローバル化の進展のなかで、人やモノは国境をはじめとするさまざまな境界を越えて移動するようになってきました。越境文化論コースでは、そのような境界を越える移動がもたらす問題について、移住移民、観光（ツーリズム）、科学技術（テクノロジー）の3つの観点からアプローチします。グローバル化が不可避的にもたらしている文明・文化の非対称的な接触を通じて生じる衝突や摩擦、混交や変容についての理解を深めます。

## 所属教員の紹介

### 井上 弘貴 教授 越境文化形成論特殊講義ほか

政治理論、公共政策論、アメリカ政治思想史を専門としています。アメリカ研究の観点から移民問題などをめぐってアメリカで起きている「文化戦争」を、あるいは実務的な見地から日本における観光地域づくりを主として研究しています。

### 辛島 理人 准教授 越境社会文化論特殊講義ほか

アジア太平洋地域における知識社会史や文化経済史を専門としています。開発援助・経済成長や持続可能な観光についての知識や規範が、国境を越えてどのように流通し制度化するのかを研究しています。

### 塚原 東吾 教授 科学技術社会論特殊講義ほか

科学史および科学技術社会論を研究しています。最近では地球環境問題、気候変動とアンソロポセン、それにバイオ資本主義の問題を検討しています。

新任教員（2025年4月着任予定）越境文化交流論特殊講義担当  
新任教員（2025年10月着任予定）越境社会共生論特殊講義担当

**進路実績** 長崎市職員（学芸員）、三菱東京UFJ銀行、パナソニック電工、ニシキ商会、ニトリ、GMOクラウド、兵庫県立大学客員教授他。

**在籍学生数**（前期課程）\*令和7年度4月開設の新コースのため令和6年度3月末までは（後期課程）在籍学生なし

**論文テーマ例** 科学技術の発展と安全・安心社会の相関、生野銀山お雇い外国人ジャン・フランソワ・コワニエと日仏交流、西川如見の文献に見る宇宙観・自然観、そのほか、新コース開設にあたり、環境問題、科学史、科学社会論、移住移民、開発援助、観光研究、観光地域の国際認証、アメリカ研究に関するものなど。

## 修了学生からのメッセージ



## 島 早里奈さん

(2020年度博士前期課程修了)  
神戸女学院大学文学部卒業。研究テーマは「江戸時代の文献からみる魚食の分析～『江戸流行料理通』・『誹風柳多留』より」。現在、社会保険診療報酬支払基金職員。

大学在学中に様々な文献を通して、和食文化に興味を持ち始めていた私は、卒業後も研究を深めたいと思い、神戸大学国際文化学研究所のオープンキャンパスに参加しました。そこで「塚原研究室（通称：つかけん）」に所属する方々、先生の研究姿勢に魅了されました。実体験や調査の大切さを痛感し、辻ウェルネスクッキングでは日本料理を、京都・萬亀楼では庖丁式を経験し、江戸時代から続く鎌倉の料理茶屋「八百善」では、江戸料理の体験と八代目店主へのヒアリングを実施しました。

比較文明・比較文化論コースに入学後は、グローバルな視野から食文化についての理解を深める機会を頂戴しました。岐阜県での科学史学会では、朴葉味噌など地域の料理を、写真に掲載している、ピビンバ発祥の地、全州（韓国）で開催されたICHSEAでは、韓国料理を体験することができました。大学院の大納会では、国際色豊かなゼミ生達と体験した韓国をはじめ諸外国の食文化について情報交換しました。

また、自身の分野はもちろん他分野、他専攻の授業も受講できる恵まれた環境を活かすことによって知識の幅が広がり、さらに、語学教育にも関心があった私は、日本語教師養成コースも受講しました。

国際色豊かな研究室では、母国をはじめとする各々の国の代表的な料理と一緒に食すことを通じて、諸外国の実情や文化に触れることができ、充実した学生生活を送ることができました。分からないことがあったらお互いに助け合い、時には切磋琢磨しあえる仲間ができた研究室は、私にとって憩いの場であり、鍛錬の場でもありました。諸事情で帰国してしまった留学生とも連絡を取り合っており、コロナ禍で実現できなかった各国の留学生との旅行をいつかは実現させたいと思います。修了後も食文化の研究を継続したいと考えていますので、諸外国にも目を向け、研究室の仲間たちとも繋がりたいと思います。是非、皆さんにもこの研究科で、多面的な視野を広げ、多国籍な仲間たちとともに研究を深めて欲しいと考えています。



## 北村 沙緒里さん

(2012年度博士前期課程修了)  
広島市立大学国際学部卒業、神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了。研究テーマは「小泉八雲を中心とした明治期の来日外国人の比較文学研究」。現在、長崎市職員（学芸員）。

私が大学院への進学を志望したきっかけは、学部時代の研究テーマをもっとしっかりと勉強したいという単純な理由からでした。私は本コースで、明治期の来日外国人の著作に見られる「日本」像についての比較研究がテーマでした。修了研究レポートでは、小泉八雲の文学作品を扱い、テキストと挿絵の表象について論じました。私の場合、入試当初の研究計画の内容は博士前期課程の二年間で大きく変わりました。しかし、それも限られた研究期間の中で、恵まれた指導体制と充実した資料環境（図書館など）によって得られた結果だと思います。本コースの特徴は、大きく科学技術文明と言語文化の二つの研究分野に分かれます。異なる分野の境界を越えて、学生生活の中で仲間と研究について語り合えるのは自身の研究への刺激になります。また、コースにとられない横断可能な履修システムによって、芸術、思想、文学など、あらゆる視点から自身の研究を深めていくことが可能です。入学時の研究計画を進めていくことも本分ですが、授業を通して得られる研究の新たな視点、見直し、深化は、自分次第でいくらかでも研究に反映できると思います。充実した研究生生活を支える環境が整っています。

## 田井中 雅人さん

(2021年度博士後期課程修了)  
早稲田大学政治経済学部卒業  
研究テーマ：「放射線被曝防護の国際的基準策定プロセスの科学的的研究」

新聞記者として原爆や原発といった核問題を取材してきた私は、故・中川保雄・神戸大教授（1943-91）の著書『放射線被曝の歴史』に大いに触発されました。縁あって、中川教授の系譜を継ぐ国際文化学研究所（比較文明・比較文化論コース）の塚原東吾教授の指導を受けながら、博士論文の執筆をしました。

研究では、中川教授の遺族から神戸大学に寄託された段ボール15箱分の資料を読み込みながら、放射線被曝防護の国際的基準がどのように策定され、2011年の福島第一原発事故後にもそれが適用されているのかを検証しました。

2020年12月に神戸大学主催で開催された科学技術社会論（STS）学会の「中川保雄記念シンポジウム」で報告させていただきました。専門分野を深掘りすることで、アカデミズムとジャーナリズムの双方に貢献できればと考えています。

勉強熱心な塚原研究室の学生さんたちとの交流は刺激的です。あいにくのコロナ禍でフィールドワークや対面の機会はめっきり減りましたが、SNSなどでマスコミ志望の学生さんたちの就職相談や作文指導を行い、研究室から新聞社内定者が2人出たのうれしいことです。



## 白井 智子さん

(2014年度博士後期課程修了)  
クレルモン＝フェラン第2大学人文社会学部研究科修士課程修了。研究テーマは「生野銀山を雇った外国人ジャン・フランソワ・コワニエと日仏交流」。現在、姫路日仏協会会長。

私は、本大学院入学以前、フランス語教育と日本語教育に携わる傍ら、兵庫とフランスとの交流史を色々な時代・人物に焦点を当てて調査・研究をしていました。しかし、これらの研究は題材が多様で一貫性を欠いていたため、ご専門の先生方からご指導いただきながら、これまでの調査結果を練り直し、さらに研究を深めて博士論文として一つに纏め上げたいと考え、大学院入学を決めました。

本コースを選んだ理由は、私が探し求めていた文化交流や比較文化、科学技術史が専門の先生方がいらっしゃることに加え、様々な国や時代における文明や文化、歴史に精通された先生方が結集して、多方面から研究指導に当たっておられたからです。また、国際文化学研究所は、所属コースに関係なく、他コースの授業も履修可能なため、より一層学際的研究ができ、その上、本大学は複数のフランスの大学と協定を結んでおり、院生でも留学できる機会を得られることも私にとって大きな魅力でした。

在籍中、指導教授を始め、日仏両国で諸先生方からきめ細かなご指導を頂戴し、様々な観点から多角的に研究を進め、大きな成果を挙げる事ができました。恵まれた環境の中で充実した研究生生活を送ることができ、私にとって掛替えのない素晴らしい3年間でした。

## Q&amp;A

## 理系じゃなくても大丈夫？

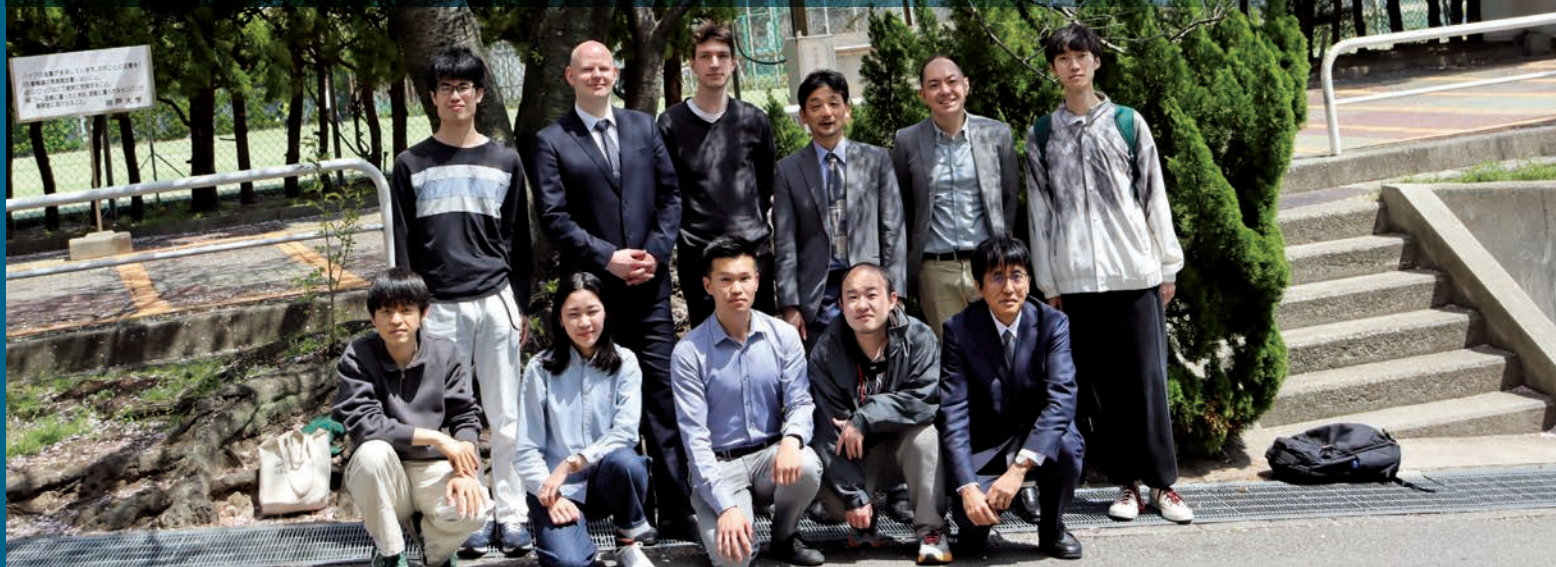
複雑多様な社会を理解する上で、科学的な物事の見方を身につけることはとても有意義だと思うのですが、大学時代は文系でした。本コースで科学史や科学技術社会論の研究をする際に理系の学問的基礎が必要なのでしょうか？

文系の方でも大丈夫です。そもそも、文系とか理系とか言っている場合じゃありません。たとえば先端テクノロジーやネット社会、テクノ・ディプロマシーとかGAFAs、バイオ技術・生殖テクノロジーと世界の貧困、気候変動とクライメイト・ジャスティス、無人の軍事ドローンやロボット兵士の問題、それらは誰もが関与することになる、というか、すでにかなりの影響を受けている問題ですし、われわれのサバイバルがかかっているのですから。

移住移民、観光、科学技術の3つの観点からアプローチするコースとのことですが、わたしはとくに観光に関心があります。すべての観点に関心がないとこのコースには合わないのでしょうか？

コース合同での演習では、それぞれの専門を基盤にして、複合的な観点から議論をしたり、問題意識を深めたりする機会がありますが、本コースに所属している教員は特定のアプローチに精通しており、まずは移住移民や観光、テクノグローバルイゼーションの問題のどれかに関連のあるテーマを掘り下げることで問題ありません。その基盤を作ってから、どのように応用が可能かを考えますので、それぞれの分野の問題を、他の分野の人たちとも議論できることが重要です。

# 国際関係・比較政治論コース



本コースでは、高い専門性をベースに世界各地域の政治現象を捉えることを目指しています。そのために、国際関係や国内政治過程に関する質的調査、理論の適用、統計的手法を用いた高度な研究が、院生によって進められています。従来の政治学や国際関係論では十分に明かにされてこなかった課題に注目して解き明かしたい意欲的な皆さんを歓迎いたします。5名の教員は、政治学の主要なアプローチを全てカバーするバランス良い構成となっており、院生による新しい研究意欲や向上心に対応していく体制となっています。

特筆したい点として、論文作成の基本に関して新年度毎にオリエンテーションを行っています。また論文作成指導では、前期課程と後期課程の院生が全員、出席するグループ研究発表会を実施しています。この場の知的迫力は、ぜひ体験して頂きたいものです。教員と院生の全員が協力して徹底した検討を加え、オープンな場で鍛え合っています。この過程で、参加者には、向上心、自発性や集団での作法が身に付きます。また政治学の基礎から応用までを修得し、キャリア形成を目指す院生が社会に出ても通用する思考力や討論力を体得していきます。

本コースでは、院生がどんな研究テーマを選択しても、新しい多文化共生のあり方を大切にする視線に身に付けて頂きたいと思っています。教育政策、移民問題、民主化、ナショナリズムの動態、安全保障問題、福祉制度などについて、基本と応用を大切にしながら研究が積み上げられてきたのも本コースの特徴です。また前期課程では政治学以外を修めた方が後期課程で政治学を身に付けたい、といった学際的な院生の志向に対応してきました。キャリアアップ志向の方にも、研究者志望の方にも、きっと自分を向上させるきっかけを見つけてもらえるはずと信じています。

わたしたちと共に、新しい国際社会のあり方を見出そうではありませんか！

## 所属教員の紹介

### 中村 覚 教授 比較地域社会論特殊講義ほか

国際政治学の諸理論を見直し、新興・発展途上国地域における紛争予防、多文化主義、テロ対策等に適するアプローチやモデルを探求しています。中東・ムスリム地域の安全保障、日本と中東の関係を含む国際関係、国家形成を研究しています。

### 新川 匠郎 講師 比較政治社会論特殊講義ほか

議会と政府の関係、ドイツ・ヨーロッパの政治、質的比較の手法を主に研究しています。

### 安岡 正晴 教授 比較地域政治論特殊講義ほか

現代アメリカ政治（特に移民・人種問題、連邦制、日米中関係など）を研究しています。

### David Adebahr 講師 国際政治社会論特殊講義ほか

国際関係論に基づいて近代アジア太平洋の国際関係を研究しております。特に日本の外交政策などをテーマにしています。

**就職実績** (前期課程) 日本放送協会(NHK)、関西経済連合会、大阪市、神戸大学職員、日本新薬、テス・エンジニアリング、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構、国際交流基金、(株)日本オラクル  
(後期課程) アジア経済研究所、Promis 学術研究員、日本経済研究所、安全保障貿易情報センター、関西学院大学国際学部専任講師、大阪大学人間科学研究科助教

**在籍学生数** (前期課程) 10名  
(後期課程) 5名

**論文テーマ例** 中国の「一帯一路」と日本政府と経団連の対応、21世紀の日米同盟の制度化における相互不安、アメリカにおける外国人非熟練労働者受け入れ政策、The role of education in France and Japan's cultural diplomacy、西ヨーロッパにおける政党システムの動態パターンの比較研究、イスラエルの核兵器をめぐる不透明政策と全方位均衡、米国連邦議会下院議員の投票行動の分析、セルビアのヨーロッパ化—メディア表現の自由とコソヴォとの関係正常化に注目して、イラン核問題における討議の論理

## 院生からのメッセージ

## 勝裕 遼さん

(博士前期課程 2年)

神戸大学国際人間科学部グローバル文化学科卒業

研究テーマ:「ルワンダ・ブルンジにおける民族紛争終結後の政治体制の変遷」



もともとアフリカ地域に関心を持っていたため、学部生のときから比較政治学を専攻し、アフリカ地域における権威主義体制の存続要因について研究を行っていました。自身の関心に基づき、途上国開発の分野でキャリアを歩んでいくことを考えていましたが、そのために必要な専門知識や論理的思考力、必要な情報を収集・整理・解釈する力などが不足していることを痛感し、それらを身につけるために大学院進学を決めました。特に政治学の分野は、複雑性が高いぶん自分には価値観に深く触れる機会も多く、より多様な視点から物事を捉えることに繋がります。その多様な視点は、日本とは全く異なる価値観のもとで生きている途上国の人々と協働体制を構築していく際にも、自分を大きく助けてくれるものであると考えています。現在はルワンダとブルンジの政治体制に関する研究を行っていますが、現地の政治指導者たちについてより多角的に考えることで、キャリアを通じて大切な視点を身につけられていると感じています。今後も勉強を続けながら、様々な価値観の人々と協働することができる人材に成長していきたいと思っています。

## 宮本 聖斗さん

(博士後期課程 3年)

2020年度神戸大学大学院国際文化学研究所博士前期課程修了

研究テーマ:「セルビアの欧州化と権威主義化」



私は学部の卒業間際に旧ユーゴの政治に興味を持ち始めました。大学院進学後は、旧ユーゴの中でもセルビアに焦点を当てて研究を進め、現在はセルビアにおける欧州化と権威主義化の実態およびメカニズムに大きな関心を持っています。

国際関係・比較政治論コースでは、政治学と国際関係論を主な学問的支柱に置きつつ、各院生の多様な研究課題と研究方法を受け入れる体制が整備されています。本コースの講義とゼミでは、質的研究と量的研究のノウハウ、担当教員が専門とする学問領域と地域の実状を幅広く習得することができます。さらに、他コースが開講する講義やゼミの履修も可能で、実際に私も修士時代に他コースの授業からも多くの学びを得ました。

本コースで実際に研究を進める際には、一ヶ月に数回の頻度で開催される、コース全体の院生と教員による研究発表会が非常に有益です。この研究発表会は、本コースの大きな特徴と言え、そこでの発表と質疑応答を通じ、自身の研究の質と質疑応答の技術を高めることができます。さらに、この研究発表会は、院生だけでなくコース所属の教員による研究発表の場でもあり、院生と教員全員が各々の研究を共有し、研鑽を重ねる取り組みでもあります。

修士でキャリアアップを目指す方にも、修士と博士を通して研究職を目指す方にも、非常に刺激的で有意義な環境が整っていると思います。

## 修了学生からのメッセージ

## 丸岡 樹奈さん

(2022年度博士前期課程修了)

金沢大学人間社会学域国際学類卒業

研究テーマ:「文化多様性条約にみるユネスコの規範形成能力」

現在、日本放送協会 (NHK) 勤務



学部の卒業論文で、ユネスコ世界遺産の「政治化」問題を扱ったことから、文化を扱う国際機関であるユネスコと、その政治性について、さらに広い視点から研究に取り組みたいと感じ、本研究科へ進学しました。修士レポートでは、ユネスコの「文化多様性条約」に着目し、当条約の規範が加盟国をはじめ様々なアクターの影響のもとで形成される過程に関して研究を進めました。

本コースでは、定期的な指導演習の時間が設けられており、指導教員の先生のみならず、コースの先生方や院生の方々から多角的な意見をいただき、修士レポートの方向性を見出すことができました。また、修士課程の2年間で、研究と直結する授業以外にも、他コース・他研究科の授業も履修しました。ジェンダーと移民に関する問題や、ソフトを用いた政治現象の分析手法についても学び、幅広い興味や多様な視点を養えたと感じています。また、海外研修プログラムのチューターとしてパリのユネスコ本部に訪問し、学部生のサポートや、ユネスコ職員の方とお話させていただく大変貴重な機会もいただきました。

現在はテレビ局でディレクターとして働いており、国際ニュースを扱う部署に所属しています。「論文」と「テレビ」一。媒体こそ異なれど、「一つの物事をどう見つめどう伝えるか」という点で、大学院での学びが業務にも活かされていると感じます。限りある大学院生活、大変なことあるかとは思いますが、この研究科での経験や学びが皆さんにとっても実り多きものであることを祈っています。

## Q&amp;A

学部では政治学や国際関係論を専攻していたわけではないのですが、大丈夫でしょうか。

必ずしも学部で専攻している必要はありませんが、研究をより実りあるものとするために、入学までに予め基本的知識を身につけておくのと良いでしょう。

現代政治の複雑な諸問題を理解するためには、これまでの学問領域を横断したり

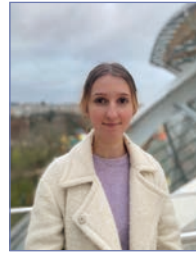
## Couet Pauline (クエ・ポリヌ) さん

(2023年度博士前期課程修了)

フランス国立東洋言語文化学院日本語学部卒業

研究テーマ:「日本とNATOと欧州連合(EU)との安全保障協力 (Japan's Security Cooperation with NATO and the European Union (EU))」

現在、パリ政治学院国際安全保障研究所博士後期課程在籍・フランス陸軍戦略大学 (Ecole de Guerre) でインターン



I did my undergraduate at the French Institute for Eastern Languages (Inalco), where I double majored in Japanese Studies and International Relations. I then did a double master's degree with Inalco and Kobe University. During my master's degree, I specialized on the development of security and defense cooperation between Japan and Europe. My master's report discussed the geopolitical factors that led to closer cooperation between Europe and Japan, as well as the development of a sense of community through shared values and strategic understanding.

A unique feature of the International Relations and Comparative Politics course is that it allowed me to actively discuss my research with teachers and student alike, which gave me the opportunity to gain the advice and opinion from many people, Japanese, European or other.

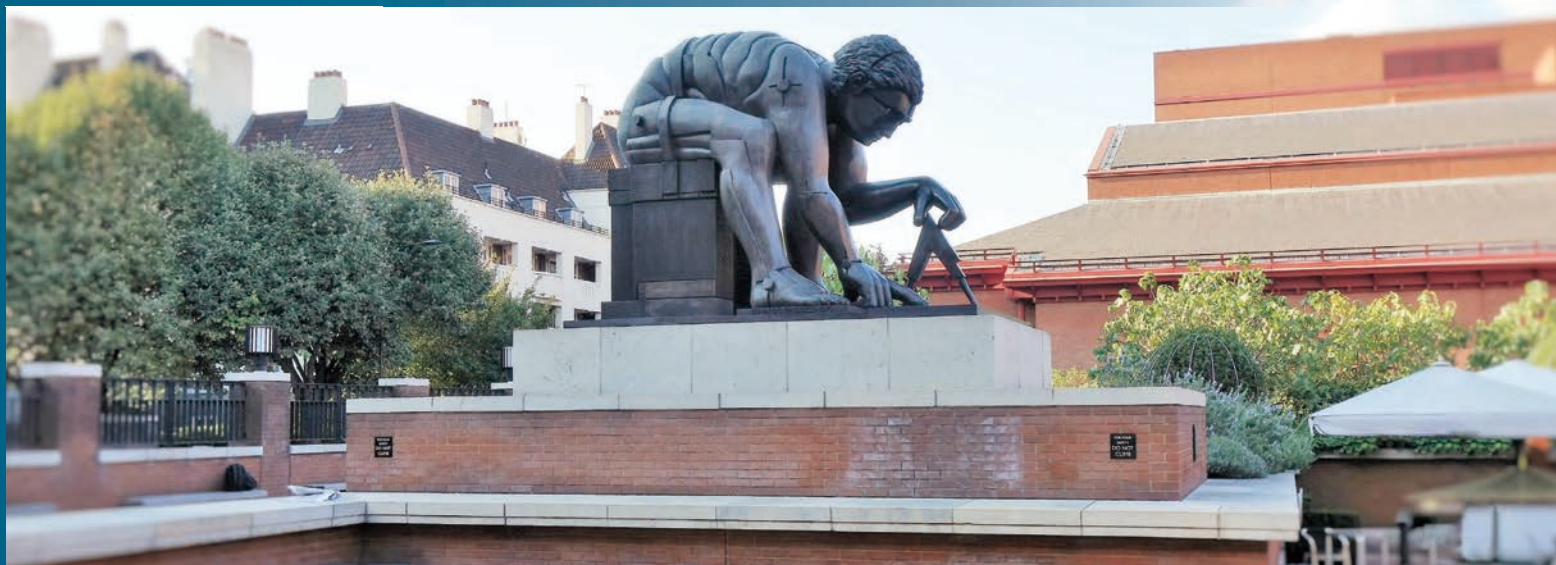
The rich debates and research presentations to which I assisted, as well as my classmates and teachers' input on my research throughout the year also helped me to articulate the structure of my report, and correct many of the shortcomings in the successive versions. Moreover, my academic course in Kobe University broadened my horizon on a range of topics relating to international relations. Even though it is not necessarily directly reflected in my report, the different courses I took helped develop my general understanding of the world.

As I wish to work for the French diplomacy in nurturing and developing relations between France and Japan, my studies in the graduate school of Intercultural Studies were very useful and gave me research knowledge, and enriching perspectives from Japan and around the world.

乗り越えたりしながら、新しい知見を目指す當みは意義高い挑戦であると考えられます。

オープンキャンパスで政治学の勉強の仕方に関して説明しますので、ぜひお越しください。

# モダニティ論コース



国民国家という政治原理であれ市場という経済原理であれ、あるいは小説という文学形式であれ遠近法という絵画技法であれ、西欧近代に由来するこれらの社会的・文化的な装置は、現代世界の基本的な枠組みをかたちづくってきました。ところが現在、この西欧近代の原理（モダニティ）は、グローバル化の進展とともに根底から揺らいでいます。こうしたなかで求められているのは、あらためて「モダニティ」の意味を問いなおし、激動する世界のゆくえを的確に読み解くことだといえるでしょう。本コースでは、近現代の社会思想・経済思想・政治思想・科学思想・倫理思想など多岐にわたる言説群を丁寧に分析することをつうじて、アクチュアルな課題に応える足腰の強い思考力を養成することをめざしています。

## 所属教員の紹介

### 上野 成利 教授 近代政治思想系講義特殊講義ほか

政治思想・社会思想史。ホルクハイマー、アドルノらフランクフルト学派にかなする思想史研究を基軸としながら、「暴力」「自由」「公共性」等の鍵概念の社会哲学的な分析に取り組んでいます。著書：『思考のフロンティア 暴力』（岩波書店）など。

### 鹿野 祐嗣 助教 近代社会思想系講義特殊講義ほか

現代フランス哲学・哲学史・精神分析理論。当時の社会的・政治的状況を考慮しながら、ドゥルーズの哲学を中心に哲学史や精神分析理論を研究しています。著書：『ドゥルーズ「意味の論理学」の注釈と研究——出来事、運命愛、そして永久革命』（岩波書店）など。

### 田中 祐理子 教授 近代科学思想系講義特殊講義ほか

科学哲学・科学史。近現代の医学を中心とした科学の歴史と、同時代の哲学を研究しています。科学と人間性の関係を、生命科学や原子物理学の歴史を通じて考察しています。著書：『病む、生きる、身体史』（青土社）など。

### 箱田 徹 准教授 近代思想文化系講義特殊講義ほか

社会思想史、社会理論。批判的な社会理論や社会哲学の展開と気候やロジスティクスといった今日的課題の動向とを見据えた上で、二〇世紀後半の社会思想の新たな読み方を探究しています。著書：『ミシェル・フーコー』（講談社現代新書）など。

**就職実績**（前期課程） 外務省（専門職）、西宮市役所、神戸大学（職員）、日本山村硝子、高知新聞社（記者）、共同通信社（記者）、イオン、がんこフードサービス、オーケー株式会社、金蘭中学校・高等学校（教員）、JNC、兵庫県高校教員（英語）、宝塚市役所 他（後期課程） 神戸大学大学院国際文化学研究科助教、中国河南省新郷学院専任講師、トルコ・チャナッカレオンセキスマルト大学日本語教育学科専任講師、三重大学人文学部専任講師、松山大学経済学部特任講師

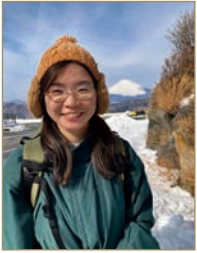
**在籍学生数**（前期課程） 6名  
（後期課程） 0名

**論文テーマ例**（前期課程） ミシェル・フーコーとエルキュール・バルバン、ピーター・バーガーの「日常」概念と宗教、批判理論における＜女性的なもの/母性的なもの＞をめぐって、E・フロムとフランクフルト学派—批判理論における精神分析学を受容をめぐって、H・アーレントにおける赦しの概念について、H・アーレントの現象学的決断主義—複数性概念の再考、自由とその制度化—H・アーレントの行為論、W・ベンヤミンにおける神話理論—永遠回帰とアレゴリーとの関係について、W・ベンヤミンの初期言語哲学再考—翻訳と批評を中心にして、ドゥルーズにおける革命の諸問題、戦時中上海映画におけるジェンダー表象、ヴァナキュラー・モダニズムとしての映画—ミリアム・ハンセンの映画理論について 他  
（後期課程） エルンスト・ユンガー、技術と近代、ニクラス・ルーマン、社会システム論、ハーバート・スペンサー、映画と公共圏、D.H. ロレンス、エコクリティシズム、ピーター・バーガー 他

## 所属学生からのメッセージ

## 三好 帆南さん

(博士前期課程2年)  
広島市立大学芸術学部卒業  
研究テーマ:「芸術と社会の関係、身体イメージ」



私は身体をキーワードに芸術と社会の関係について研究しています。学部で写真メディアを使った制作活動を行っていたときに、写真イメージをよみとく言説や、写真技術と身体の間わりに関心を持つようになりました。また交換留学先のドイツで、ミュージアムの公共空間としての可能性を感じ、卒業後は美術館での教育普及活動に携わりました。現在は、文化施設に勤めながら社会人学生として研究を進めています。社会人として働くうちに、芸術と社会の関係性を考える上で、芸術分野のみならず、領域を横断した視点を持つ必要性を感じるようになりました。そこで芸術理論と同時にそれと深く関わる思想的背景を学びたく、モダニティ論コースに進学しました。

本コースは、美学、社会思想史、政治思想史、哲学、文学など多岐にわたる講座が開設されており、自身の研究分野を多角的に検討できる環境です。また、本コースの特色であるテキストを丁寧に読むことを通して、物事を批判的に考察する視座を育むことができると感じています。

## 李 珂さん

(博士後期課程3年)  
神戸大学大学院国際文化学研究所博士前期課程修了  
研究テーマ:「映画と公共圏」



私は、中国の初期映画史について研究をしています。とくに清末民初の上海映画におけるヴァンキュラー・モダニティと公共圏に関する研究をテーマとしています。映画学は、美学、哲学、心理学、社会学、歴史学、経済学、政治学など既存の学問の枠組みを超え、社会のさまざまな側面を総合的にとらえることができる学問だと言えるでしょう。近代社会のあらゆる動向と密接な関係を持っている映画を研究するためには、既存の学問領域にとらわれない学際的な視点が必要です。

本コースでは文化言説論、表象文化論、政治思想史、社会思想史等のゼミが設けられ、便利な研究環境も備えられています。多くの授業は少人数で行われ、さまざまなテキストを丁寧に読解し、その内容について発表を行い、先生や学生と議論する形です。そこで複数の分野の先生の意見を聞き、領域を横断して多面的なアドバイスや啓蒙を受けることができます。また、院生研究室での、他コースの学生との知的交流も刺激的です。さらに、モダニティ論コースだけではなく、他コースの授業をとることも可能なため、より一層学際的研究ができます。専門的な知識を身につけながら思考力を磨くことができる環境で、充実した研究生生活を過ごすことができている。

## 修了学生からのメッセージ

## 畠中 茉莉子さん

(2020年度博士後期課程修了)  
研究テーマ:「ニコラス・ルーマンの宗教社会学」  
現在、三重大学人文学部文化学専任講師



私はニコラス・ルーマンという現代ドイツの社会学者が、社会の近代化とその中における宗教の変容をどのように捉えようとしてきたのかを研究してきました。モダニティ論には社会思想史、政治思想史、経済思想史、美学・表象文化論、英文学と非常に多岐に渡る分野をご専門にされる先生方がいらっしゃるの、普段の指導教員の先生とのやり取りのほか、年に数回開かれるコース発表会では「どんな質問が来るのだろう」と、いつもひやひやしていたことを思い出します。私の研究するルーマンは社会システム理論を得意とする論者なので、私は手をかえ品をかえ「宗教というシステムが近代社会において担っている機能とは〇〇です」という社会学的な説明を繰り返すことになるのですが、そのたび、当然のように先生方からは「その論拠は何か」「貴方のいう機能とは何か」「それは〇〇の議論とどう違うのか」「人びとの複雑な信仰をそんなに簡単に説明してしまっているのか」という、極めて鋭い質問が飛んできます。それには毎度、頭を悩ませたものでした。しかし今にして思えば、それは各々の分野の専門家から、確かな知見に基づく「問い」を投げかけてもらえる極めて貴重な機会だったと、大学の教員になった今、実感しています。モダニティ論に来られる方にはその「厳しさ」と、そしてそこに込められた意味をゆっくりと受け取りながら、ただそれには決して飲み込まれないように、長い目で見て自分自身のための学びを進めていってくださることを、少しだけ先にその場を経験した者として、望んでいます。

## 野上 俊彦さん

(2019年度博士課程後期課程修了)  
研究テーマ:「エルンスト・ユンガーとドイツの国民的アイデンティティ」  
現在、松山大学経済学部特任講師



私の研究対象は、エルンスト・ユンガーという20世紀ドイツの思想家です。この人は作家(言語芸術家)ですが、その著作の内容は政治、哲学、歴史、宗教、科学、技術、芸術など多岐にわたるので、はじめのうちは彼の言葉に圧倒されるばかりでした。

そのような私にとって、モダニティ論コースの環境はとてものありがたいものでした。本コースには、社会思想・政治思想や美学・芸術学など、複数の分野の専門家による学際的な指導体制が整っており、数多くの貴重な助言を得ることができました。また学内外の研究者を集めて実施される研究会や、院生同士の自主的な読書会などから、思いがけない学びや気づきが得られるということも少なくありませんでした。そして本コースでは、普段の授業・演習でも論文指導でも、テキストを徹底的に精読することが重視されます。地道でたいへんな作業ですが、そこから得られる知的刺激はテキスト読解の醍醐味であり、なによりこれが、思想家の難解なテキストにアプローチするための最適の方法でもあります。

私が大学院修了後もなんとか自力で研究を進められているのは、本コースでさまざまな知的刺激を受けながら基本的な研究姿勢(絶えず視野を広げるよう努めつつ、事柄を丁寧に観察し、かつ概括的に把握すること)を学べたからだだと思います。この経験は、研究にかぎらず、広く課題一般に取り組む際にも生きてくるものです。大学に職を得て学生教育にも注力するようになった現在、このことを強く感じています。

## Q&amp;A

研究テーマを絞り込むのではなく、広く「モダニティ」全般について学ぶことは可能でしょうか？

可能です。むしろ近現代の思想的諸問題について広く学べることが、モダニティ論コースの強みともいえます。とりわけ前期課程のキャリアアップ型プログラム履修生の場合には、モダニティ論コースで開講される思想関連の科目群を中心に履修しながら、幅広い分野について知見を深めることが望ましいでしょう。研究者養成型プログラム履修生の場合には、もちろん適切にテーマを絞り込まなければ修士論文を執筆することは不可能ですが、従来型の大学院では扱いにくい学際的な主題を正面から取り上げることができる点が本コースの最大の特長といえます。

フランス思想やドイツ思想を研究したいのですが、仏語や独語の知識はどれくらい必要でしょうか？

前期課程「研究者養成型」プログラム志望者でフランス思想やドイツ思想を研究対象とする人の場合には、仏語や独語の読解力がある程度そなえていることが望ましいといえます。とはいえ(外国籍学生特別入試ではない)一般入試の場合には英語で受験することになりますから、受験に臨んでまずは英語の読解力に磨きをかけ、前期課程のあいだに仏語や独語の読解力を鍛えてゆけばよいでしょう。むしろ英米思想の研究志望者の場合には、独仏語の代わりに英語のテキスト読解にじっくり注力してください(なおキャリアアップ型プログラム履修生の場合には独仏語をかみならずとも必要としないと考えてもらって差し支えありません)。

# 先端社会論コース

現代社会では、人間・自然・社会の相互関係が大きく揺らぎ、ますます複雑化してきています。「先端社会論」コースは、この現代社会の先端的な問題群を、人文・社会科学を交差する学際的アプローチによって、領域横断的に検討することを課題としています。例えば、男女の性差を社会的に構成されたものにとらえるジェンダー論の視点から、家族や個人や国家をめぐる考え方の変化を分析すること。貧困、移住、人権侵害、体制転換などのグローバルな課題の公正な解決法を構想すること。メディア・テクノロジーの革新が促進する消費社会の情報化と多文化社会が要請する新たな社会観や人間観を模索すること。「先端社会論」コースは、こうした錯綜する諸問題を理論的に解きほぐし、それらに現実的に対処していくためのトレーニングの場です。

**進路実績** (前期課程) 兵庫県庁、富士通BSC、(株)三菱倉庫、(株)コベルコシステムなど  
(後期課程) 花園大学文学部創造表現学科准教授、京大グローバルCOE研究員など

**在籍学生数** (前期課程) 10名  
(後期課程) 4名

**論文テーマ例** (前期課程)

- Representation of Romanies in Tony Gatlif's Films
- <私>のこの眼差しは、誰のものかーバク・チャヌク『お嬢さん』における「男性の視線」の流用をめぐるオートエスノグラフィー
- 「脆弱な女性たち」が問い直すネパールにおける女性運動ーパティ女性の運動から
- 日本型雇用システムにおける差別と抵抗ートランスジェンダーの新卒就職活動に注目して
- 在日中国籍技能実習生の階層帰属意識
- 「二人っ子政策」における女性の「産む・産まない」自己決定の葛藤ー潮州女性の人生の歩みを通して
- 近親者へのカミングアウトの有無がセックスワーカーの生活に与える影響
- Intersectionality and Employment: Discrimination Against Muslim Women in the Process of Job-Seeking in Japan

(後期課程)

- 日中における『シャーロックホームズ』の受容
- Diffusion of Hip Hop: A Critical Reappraisal of 'Call and Response' in the East Asian Street Dance Culture
- Rethinking Queer Migrant Experience through the Lens of Drag Performance
- 宝塚歌劇における「女同士の絆」

## 所属教員の紹介

### 青山 薫 教授 ジェンダー社会文化論特殊講義ほか

専門は社会学、ジェンダーとセクシュアリティ。グローバル化、多文化主義、社会的排除と包摂、親密権、表象の問題などに関心を持ち、移住、ケア/性労働、同性婚、性同一性「障害」など、公私にわたる変化を引き起こす事象について、理論・方法論・実証研究を結びつけて追求しています。

### 小笠原 博毅 教授 メディア社会文化論特殊講義ほか

専門は社会学、カルチュラル・スタディーズ、現代イギリス研究。とくにメディアとスポーツをフィールドとして多文化資本主義と人種差別的な文化との関係を、実証的、理論的、かつ思想的に検証し考察しています。

### 工藤 晴子 准教授 文化規範形成論特殊講義ほか

専門は国際社会学、難民・強制移動、クィア移住。人の国際移動とジェンダーやセクシュアリティの関わりについて特に難民・強制移住におけるセクシュアリティの規範という視点から研究しています。また難民支援の実務経験から、支援の暴力性や支援者/被支援者の権力関係という問題にも取り組んでいます。

### 桜井 徹 教授 現代法規範論特殊講義ほか

専門は法哲学。「グローバル・ジャスティス」、つまり、移民・難民問題、経済格差、テロ、人権侵害といったグローバルな課題を前に、国境という境界線がいかなる意味をもつのかというテーマを研究しています。最近には特に、国際移住が増加する中で、普遍的な人権の保護とナショナリズムとの間の衝突をいかに調整するかという問題に取り組んでいます。

### 西澤 晃彦 教授 現代社会理論特殊講義ほか

専門は社会学、都市社会学、社会問題論。社会的排除と貧困を主たるテーマとして、自己アイデンティティの構築・社会的世界の形成・都市空間の構成と社会的排除の関連について研究を行ってきました。

## 所属学生からのメッセージ

## 白井 望人さん

(博士前期課程 2年)

神戸大学国際人間科学部卒業

研究テーマ:「ゲイ・バイセクシュアル男性のライフコースとそれに関する考え方についての研究」



先端社会論コースは、現代社会の様々な問題について、様々なアプローチで研究をしている先生方や学生がたくさんいます。こう書くと、「何をすればいいのかわからない!」関心がバラバラで効率的に学べないのではないかと、思う人もいられるかもしれません。しかし、このコースで色々なことを学び、先生方や学生と議論していくなかで、バラバラだと思っていた様々な問題が、意外なところで結びついているんだと発見するときに必ず来ます。

私は、ゲイやバイセクシュアル等の「男性に惹かれる男性」が、女性と結婚するのか、男性と連れ添っていくのか、そして男性たちが様々な生き方の選択肢をどのように捉えているのかに興味があり、研究しています。このテーマにぴったり合う研究をしている先生や学生は周りにいないのですが、むしろそのことが自分ひとりでは考え付かなかった視点を提供してくれたり、考えもなかった現象と自分の関心が結びついていることの発見につながりました。

そして、そのような議論が活発にできる雰囲気は先端社会論コースにはあります。先生方は気軽に議論してくれるので、お忙しい中でもしょっちゅう時間を作っていただき、たくさんアドバイスをもらえます。おかげさまで、修士課程のうちに雑誌に論文をひとつ掲載することができました。また、学生同士も仲良く、学部時代よりも友達が出来ましたし、色んな議論が出来て「学生」をしているな!と強く感じます。自分の研究に限らず、決して他人事ではない様々な現代社会の課題について、色々な視点で考えることができる能力を養える点で、とてもおすすめのコースです。

## 修士学生からのメッセージ

## ラズグレイ・ヨズリさん

(2022年度博士後期課程修了)

イタリア Ca' Foscari University of Venice, Department of Humanities 卒業

研究テーマ: Football fandom



私が本研究科に進学することになったきっかけは、5年前の今の指導教員との出会いでした。当時はイタリアで博士前期課程を取ろうと考えていて、日本におけるサッカーサポーターについての研究を行っていました。前期課程の2年目で神戸大学に留学し、サッカーファンダムの研究に造詣が深い小笠原先生に出会い、それが今の研究を始めたきっかけとなりました。幅広い知識をお持ちの先生方はもちろん、興味深い研究をされている研究者が数多く在籍する環境に恵まれ、アイデアやインスピレーションがいっぱい生まれる研究室に所属していることが貴重な経験の源になっていると感じています。

私自身の研究テーマとしては、ヴィッセル神戸のサポーター文化について調査しています。スタジアムでの観戦やサポーターの活動などを人類学研究でよく用いられる参与観察というメソッドロジーを使いながら、現代社会におけるサッカーの現代儀礼の分析を国際化との関連性から考察しています。博士後期課程では、必要な単位は少ないものの、ゼミへの参加や先端社会論コースの授業を自由に受けることができ、現代の問題について議論したり、アイデアを交換することで、ダイナミックな形で自分の研究に役立つインプットがたくさんいただけることも、とてもありがたいと思っています。

## Q&amp;A

コース名の「先端社会論」って言葉はあまり聞いたことがなく、なじみがないのですが?

そうですね。「先端社会」ってどんな社会なの?と思われちゃうかもしれませんね。でも、「先端社会論」コースは、「先端社会を論じる」コースではなく、「先端的な社会問題を論じる」コース、っていう意味なんです。もう少し詳しくいうと、「現代社会の先端的な問題群に学際的に取り組む」コースです。

ああ。そうだったんですか。だけど、「先端的な問題群」って、たとえばどんな問題ですか?

科学技術の進歩とか情報化、それにグローバル化とか、現代社会に特有な性格によって引き起こされている新しい問題群、っていったらいいかしらね。たとえば格差と貧困、レイシズム、国際移住の増加に伴う多文化化とか。身近なところでは、男女の性差の意味合いがゆれ動いていることとか。

そういう問題だったら、ずっと気になっていたことにカប់ってくるかなあ。でも、さきほど「学際的に取り組む」っていうお話でしたけれど、専門分野としてはどうなるんでしょうか?

専門分野という言い方をすると、今現在のコーススタッフは、社会学、カルチュラル・スタディーズ、ジェンダー論、法学、哲学ってということになるかしら。けれども、

## 神谷 穂香さん

(博士後期課程 2年)

学習院大学人文科学研究科修了

研究テーマ:「現代日本のセクスイワーカーによる発信について」



私は現代日本のセクスイワーカーによる発信、具体的にはエッセイ、SNSでの投稿、YouTube動画などを対象に勉強しています。博士前期課程までは他大学に在籍していましたが、当時の指導教員の退任を機に、このテーマにおいて代表的な研究者でいらっしゃる青山薫先生のもとへ進学することを決めました。

先端社会論コースでは、自分の専門性を磨きつつ同時に分野を越えた勉強をすることが可能です。これは、本コースの先生方の専門がさまざまであること、他のコースと合同で利用する院生研究室において多様な関心を持つ学生と交流できることなどから感じます。また、研究科の特徴として留学生が多いため、日常的に英語を使い、異なるルーツを持つ者同士で刺激を受け合っています。

授業以外では、国際文化学研究推進インスティテュートの主催で定期的にセミナーが行われるため、他大学の先生や学生とも交流の機会を持つことができます。さらに本学は、博士後期課程の学生へのキャリアアップ支援が手厚く、就職支援のイベント、大学教員準備講座、大学教員インターンシップなどに参加することができます。

以上のように本学や本研究科、あるいは本コースには、研究者として、そして1人の人間として成長できる環境があると感じています。

## HUGHES Phillip さん

(博士後期課程修了)

研究テーマ: Queer migration and drag performance in Japan: Rethinking identification, participation and belonging

現在、兵庫県立大学国際交流機構(客員教員)



神戸大学国際文化学研究科に入学したきっかけは、現代における社会問題とその背景にある事情を学ぶだけではなく、現在の日本と私の出身地であるイギリスやその他の国との関係を歴史的に遡りながら、広い学際的視野で研究ができると思ったからです。

本研究科では、当事者研究を理論的にも方法論的にも肯定しつつ、日本における外国人研究者である自身をパラダイムとして、マジョリティ/マイノリティ、加害者/被害者、差別者/被差別者という位置づけを実証的に研究しました。そのような理論的視点から、LGBTQ 移住者の規範意識、セクシュアリティやジェンダーへの期待は、移住を通じてどのように再形成されるのかを論じ、移住は日本のLGBTQ コミュニティ、文化、政治を変容させたことが明らかになりました。このような先進的課題を研究する私には、本研究科の先端社会論コースはぴったり合いました。

指導教員の青山教授のおかげで、教育現場でも、多様な価値観と広い視野を持ちながら、理論と実践の両輪を回しながら前に進んでいます。本コースで学んだ私が教員として教鞭を執り、今日の学生に伝えたいことは、「今日の課題の発見に努めると同時に、それらをアカデミックな研究の場に反映させる視野の広さと柔軟性を持ち合わせながら、学際的かつ多角的に研究することを通して、諸問題を共有することの重要性」であり、その重要性を教え伝えていくことを自身の使命とし、さまざまな能力を磨くようにこころがけています。

「学際的に取り組む」ってということは、そうした従来の分野が単独では扱いきれない問題に取り組む、ってことです。つまり、あまり専門分野は気にしなくてもいいんじゃないかしらね。

それにしても、学部時代の専門とはだいぶズレているんですが、だいじょうぶでしようか?

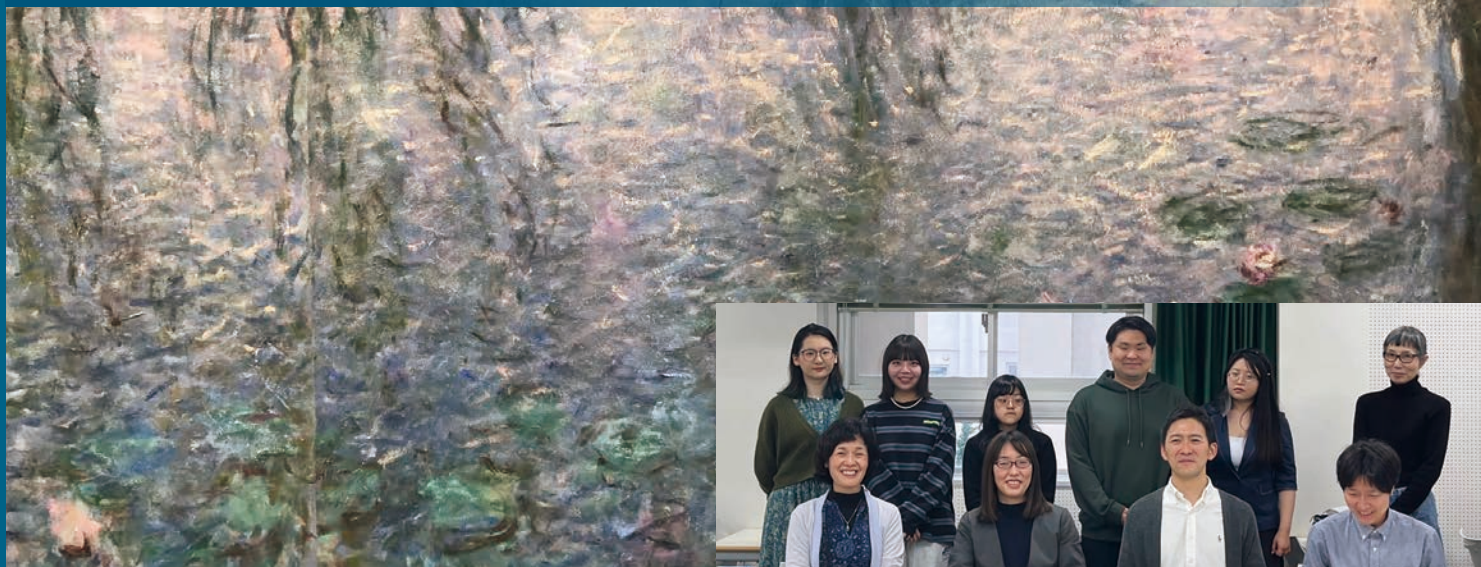
この研究科には、そういう人のためにキャリアアップ型プログラムがありますし、入試問題に合格点が取れるだけの基礎学力があれば、あとは入学後の熱意と努力だと思いますよ。

すみません。私も質問していいですか。私はドクターまで進学したいという希望を持っているのですが、先端社会論コースの研究者養成型プログラムの入試はかなり難関なのでしょうか?

ドクター進学を考えているのなら、前期課程の入試よりもむしろ後期課程の入試に注意してください。募集人数を見てもわかりますように、前期課程に入学しても後期課程に進学できるとは限りませんから。研究者養成型プログラムを選択するのでしたら、前期課程・後期課程の5年間で博士論文を完成させるつもりで、そのために必要な基礎学力をしっかり身につけておいてくださいな。



# 芸術文化論コース



芸術文化論コースは、芸術文化コンテンツ系と芸術文化環境系から構成され、造形美術（絵画）、文学、舞台芸術（音楽、オペラ、演劇）、ファッションなどの芸術（アート）作品と社会との関わりについて研究しています。

コンテンツ系では作品内容の分析を通してそこに反映される社会意識や世界観を考えます。環境系では、創作の自由やアートへ容易にアクセスできる権利の保障、文化施設運営の実際などについて、国際比較を踏まえて考察し、文化政策のグランドデザインや、その具体的実践としての芸術と社会をつなぐアートマネジメントに取り組んでいます。

本コースでは、学部時代の専門に関わらず、芸術とそれを支える環境に関心を持ち、専門的に学ぼうとする意欲にあふれた学生の受験を歓迎します。

**進路実績**（前期課程）国際交流基金、神戸大学創造連携本部助教、びわ湖芸術文化財団、兵庫県立芸術文化センター、神戸市民文化振興財団、関西フィルハーモニー管弦楽団、広島市現代美術館、同志社大学職員、大阪大学職員、安芸市役所、豊岡市役所、京都市役所、NHK、カフェ・カンパニー株式会社、株式会社ナレッジラボ、岡谷鋼機株式会社、株式会社 SIG、他

（後期課程）同志社大学教授、福井大学准教授、京都橋大学准教授、東北工業大学准教授、大阪府商工労働部主任研究員、サントリーホールディングス、神戸大学非常勤講師、大阪市立大学非常勤講師、関西学院大学非常勤講師、大手前大学非常勤講師、流通科学大学非常勤講師、龍谷大学准教授。

**在籍学生数**（前期課程）7名  
（後期課程）2名

**論文テーマ例**（前期課程）地域コミュニティ、パブリックシアターの組織運営、民間非営利組織間のネットワーク形成、持続可能なコミュニティアート、崇仁地区のアートプロジェクト、ベルリンの「社会文化センター」、スウェーデンの文化政策と市民活動、文化遺産の保護と活用：フランスと中国の旧市街地、パリの都市空間整備、ベルギーにおけるコンゴ系ディアスポラ、日韓インディーズバンド、ロシア帝政期の教会建築、ジャポニスム、林忠正、印象派画家カイユボット、フランスの女性作家、前衛書と抽象表現主義絵画、コルセットの表象、日本のストリートファッション、他

（後期課程）文化政策と社会的包摂、日本の近代広告、ドゥミエと近代都市パリ、戦前の日本における近代フランス音楽の受容、ジャポニスム期の日本陶磁器コレクションと日仏の交易、宮沢賢治と光学、シンガポールの文化政策、他

## 所属教員の紹介

### 石田 圭子 准教授 近現代芸術理論特殊講義ほか

美学・芸術論が専門です。政治と芸術の関係について、理論的・歴史的な観点から研究を進めています。また、社会や政治の問題にコミットメントしようとする近年のアートの動向にも関心があります。授業では理論と具体的な作品の両側面からアートとは何かを考えたいと思います。

### 磯谷 有亮 講師 現代芸術社会論特殊講義ほか

専門は近代美術史と写真史。特に両世界大戦間期のフランスの事例を中心に、写真と同時代の美術、グラフィックデザイン、印刷出版業の変化と発展との関わりを研究しています。また写真の歴史が編まれるにあたり、美術史、美術館や図書館の果たした役割にも関心があります。

### 岡本 佳子 講師 芸術文化表現論特殊講義ほか

研究分野は舞台芸術学、西洋音楽史です。特に20世紀転換期の中・東欧の舞台芸術作品（オペラや演劇等）を対象として、音楽や文学、パフォーマンスの側面から成立過程の解明と作品分析を行うとともに、作品が古典化されていく歴史の変遷について研究しています。

### 高田 映介 講師 文化環境形成論特殊講義ほか

19世紀ロシアの作家・劇作家チェーホフを専門に、人間が抱える諸問題と文学と科学の関係について研究しています。また、現代ロシア文学にも関心があります。授業では文学や芸術の豊かさに触れながら、異文化を知り広い視野で物事を捉える場を皆さんと作っていきたくと考えています。

### 新任教員着任予定 現代芸術動態論特殊講義担当

## 所属学生からのメッセージ

## 王 嘉儀さん

(博士前期課程2年)  
厦門大学外国語学部卒業  
研究テーマ：「日本における海外ミュージカル」



幼い頃から舞台芸術に強い関心を寄せ、役者としても観客としても、様々な経験を積んでまいりました。学部時代には、特にミュージカルに興味を持ち、日本での海外ミュージカルの上演に関する考察を深め、それが私の研究テーマとなりました。より深く、包括的な研究を行うために、本研究科の芸術文化論コースに進学しました。

本コースの魅力は、現代アート、写真、オペラ、各国の文学など、多岐にわたる芸術分野の授業に触れることができる点にあります。様々な芸術形式の個性や発展の歴史を理解し、

文化や社会との関連性を深めることができます。授業は通常、少人数で行われ、議論や発表が活発な雰囲気です。学期中には、美術館や写真展を訪れることもあり、宝塚歌劇や歌舞伎、文楽などの舞台芸術を鑑賞する貴重な機会も得られます。これらの見学を通じて、芸術に対する感性を磨くことができます。先生方は親切で優しく、研究に対する丁寧なサポートを提供しています。また、研究室では、日本、中国、イタリア、フィリピン、インドネシアなど、異なる国籍や文化背景を持つ学生との交流が盛んで、友好的な雰囲気の中で学び合える環境です。

## 修了学生からのメッセージ

## 久保 優梨子さん

(博士前期課程修了)  
研究テーマ：地方芸術祭は必要か 地方都市・神戸での試み「アート・プロジェクト KOBE 2019:TRANS-」を例に  
現在、NPO法人 BEPPU PROJECT 正職員。



在学中は、多様な現代アートのなかでも、とりわけ嗅覚を刺激する作品に興味を持っていました。いっぽう課外では、ギャラリーでのインターンや芸術祭のスタッフといった形で、実務経験を積むことに専心しました。

現在は、大分県別府市でアート振興やまちづくりに取り組むNPO法人 BEPPU PROJECT に在籍しています。狭く深くアートを極めるというより、色々な人が色々な関わり方のできるアートや文化のあり方を模索している組織です。よって業務内容は、アーティストとやりとりをして良い作品を生み出すことにとどまらず、広報、事務、協賛活動など多岐に渡ります。加えて、必ずしもアートに詳しくない地域住民や行政職員と前向きな関係を築くことも、地域(とくに地方都市)でアートを実践・継続するには非常に重要です。彼らと協働しながら、いかにアートと地域の双方にとって良い活動ができるか、常に考えて仕事をしています。

そんな実際の現場では、アートへの愛情や知識だけではどうにもならず、打ちのめされそうになることもあります。しかしそんな場面こそ、在学中に得た学びが現在の自分の基礎体力、あるいは指針になっていると感じることが多く、本研究科の素晴らしさを感じています。本研究科の多様な芸術分野に触れられる環境に身を置いたことは、結果的に、決して単体の事象としては存在せず、現代社会のあらゆる事象や様相を反映する存在としての現代アートに対する理解を深め、それを社会に広げたいという目標を抱くことにつながりました。

これから入学するみなさんには、おそらく想像が及ぶ以上に、学生という立場は特権的でチャンスに溢れているということをお伝えたいです。この恵まれた環境を最大限活用し、興味のあることや試してみたいことにおそれず取り組んでください。積極的かつ真摯に行動すれば、コースの先生方は言わずもがな、学外にも応えてくれる大人がきっとたくさん現れると思います。

## 船戸 杏珠さん

(博士前期課程2年)  
京都産業大学国際関係学部国際関係学科卒業  
研究テーマ：「コード化する身体とファッション」



私は、媒体となる身体とファッションの関係性について研究しています。

修士1年では「インターネットにおけるジェンダーとファッションの変容」というテーマで口頭発表を行いました。現在は1960年代以降のファッションデザインを中心に研究しています。この時代はオートクチュールの誕生によってファッションは作品化され、芸術家としてのデザイナーが形成され、ファッションを芸術作品として捉えようとする考え方が普及しました。綿密な作品分析を中心に、身体を価値観やアイデンティティの媒体と捉え、身につけること一身体を行き来しながら研究を進めています。

芸術文化論コースでは、アートをはじめとしてオペラや演劇、文学などあらゆる芸術学群での授業が展開されており、国籍を超えた学生同士とのディスカッションを通して文化的な視座を深めることができます。私自身他分野からの進学ということもあり授業について行くのに日々苦労していますが、真摯に向き合ってくださいの先生方含め、熱意のある生徒に囲まれて刺激の多い毎日を送っています。芸術に対する複合的な視野を養いながら自身の研究をブラッシュアップできるのが本コースの特色だと思います。

## 小林 瑠音さん

(博士後期課程修了)  
ウォーリック大学大学院芸術学科修士課程修了  
研究テーマ：1970年代英国のコミュニティ・アート運動、英国アーツカウンシル史  
現在、芸術文化観光専門職大学講師



国際文化学研究科在学時は、1970年代に興隆した英国のコミュニティ・アート運動と英国アーツカウンシルの関係性に焦点を当て、文化政策の観点から博士論文にまとめました。修了後も国際文化学研究推進センター(Promis)学術研究員として充実した研究環境に身を置くことができ、領域横断的な研究ネットワークの構築手法を学ぶことができました。現在は、パフォーミング・アーツと観光を架橋する教育機関にて、教員として研鑽を積んでいます。

私は、学部、修士、博士でそれぞれ専門分野の転向を重ねてきたうえに、一旦アカデミアを離れて芸術祭や小劇場の現場で働くなど、回り道をしてきたのですが、本研究科での勉学を通して、理論と実践双方の視点から事象を捉え、それぞれの言語を操るバランス能力と洞察力を養うことができました。在学時の人脈は、現在の職場でも大いに役立っています。

また、美術史、美学、文化研究、社会学、政治学など各領域で第一線を担われている先生方のゼミや研究会で、最先端の研究動向や専門知に触れることができ、それらの経験は、今後の調査・研究に向けて、巨視的なアプローチを探るうえで重要な土壌となっています。

## Q&amp;A

## 学部時代の専門は芸術がテーマではないのですが？

芸術文化の研究もまた歴史や現代社会のさまざまな事象につながるものですから、学部時代の勉学を生かしてテーマ設定をすることは可能です。また博士前期課程では、自分の関心あるテーマだけではなく、いろいろな作品にできるだけ幅広く触れてほしいと考えています。

## 語学力は必要でしょうか？

研究する際に必要になる考え方の多くが欧米の研究を基礎としていることもあり、英語を知っていることは研究の大きな助けになります。また、芸術文化は言語と密接な関係にありますので、すくなくとも入学後には研究対象と関係する語学を学習してほしいと思います。

# 言語コミュニケーションコース



「ことば」は概念やメッセージを相手に伝える単なるコミュニケーションの手段であるだけでなく、人間の認知・思考・習慣とも密接に関わる文化そのものともいえます。本コースでは言語構造や言語慣用に関する比較・対照分析を基に、外国人に対する有効な日本語教授法の探求、第二言語習得における言語的・文化的分析と方法論の開発、多種多様なレトリックの比較分析などを進め、グローバル化の進展の中で今や不可欠になりつつある異文化間コミュニケーション上の諸問題の解決に積極的に取り組んでいます。基礎から応用に至る、言語コミュニケーションに関わる様々な講義・演習を通して、実践的応用能力あるいは教育・研究能力を持つ人材の養成を目指しています。

**進路実績** (前期課程) 日本経済大学講師、北洋大学国際文化学部講師、大阪府立高等学校(英語教員)、国際交流基金ニューデリー日本文化センター、(株)資生堂、(株)シャープ、アップ教育企画、日本放送協会、JR西日本関連会社、特許事務所、他  
(後期課程) 天津外国語大学教授、中国電子科技大学准教授、関西学院大学准教授、上海大学准教授、東京大学特任講師、東海東京証券、他

**在籍学生数** (前期課程) 18名  
(後期課程) 7名

**論文テーマ例** (前期課程) バイリンガリズム、日・仏語のフィラー、カタカナ表記語と社会言語学、説得とレトリック、マンガのオノマトペ翻訳、日本語教育の社会的側面、日本語の接統詞、他  
(後期課程) 第二言語の形態統語の習得、複合動詞、日中同形漢語、フィクションのレトリック、物語論、自由間接話法と文体論、日本語教育の歴史、日本語のモダリティ表現、格助詞「に」「で」「を」の習得における定例フィードバックの効果、他

## 所属教員の紹介

### 石田 雄樹 講師 言語慣用類型論特殊講義ほか

フランス文学を中心に、言語学や物語論の理論に基づいた、文学作品の語りの特徴や構造の分析を主に行っています。また、自己同一性、幸福、翻訳、異文化理解といった思想・文化的問題を「語り」という側面から研究しています。私は「私」をどのように語るのか、自己語りの幸福とは何かといった問題に特に関心があります。

### 川上 尚恵 講師 日本語教育応用論特殊講義ほか

中国や日本国内を対象とした日本語教育史研究を主に行っています。学習/教育に関わる人々の実践や日本語教育の枠組みを史的な観点から分析することで、日本語教育の社会的意義や役割、あり方を問いたいと思っています。日本語教育の実践分野に関する研究も視野に入れており、特にノンネイティブの日本語教師養成について関心があります。

### 小松原 哲太 講師 レトリカル・コミュニケーション論特殊講義ほか

言葉の意味を効果的に表現するレトリックを、意味論、文法論、語用論を中心とした言語学の立場から研究しています。意味を理解し、ときに誤解する、私たち言語使用者の柔軟な解釈を重視する、認知言語学の理論を背景として、具体的な用例の収集、記述、分析にもとづく、言語のコミュニケーション機能の探求を行っています。

### 齊藤 美穂 准教授 日本語教育方法論特殊講義ほか

私の研究の主な関心領域は、方言を含む現代日本語文法の分析と、外国にルーツを持つ子どもたちへの第二言語としての日本語教育です。近年は特に、子どもたちのアカデミックな言語習得を支援することに関心を持っています。

### 田中 順子 教授 第二言語習得論特殊講義ほか

第二言語習得 (SLA) プロセスにおけるアウトプットとフィードバックの役割や、個人差 (言語学習適性など) が SLA に及ぼす影響について研究をしています。また、第一言語 (L1) には存在しない第二言語 (L2) 概念が、どのような過程で正しく (あるいは誤って) 区分されて L2 形態にマップされるのかに関心があります。SLAのみならず、教室内での外国語学習やマルチリンガル環境下での言語習得とその問題点も扱っています。

### 南 佑亮 准教授 比較・対照言語論特殊講義ほか

言語記号は人間の認知能力とコミュニケーション上の目的によって動機づけられていると考える認知・機能言語学の立場から、英語と日本語の様々な文法構文について研究しています。特に、あまり注目されてこなかった現象に光を当て、その分析を通して話者の言語知識のあり方を少しずつ解明していくことに力を入れています。

## 所属学生からのメッセージ

## 上田 明歩さん

(博士前期課程 2年)

神戸大学国際人間科学部卒業

研究テーマ：中国語を母語とする日本語学習者がカタカナ表記の外来語習得を困難とする要因の検討



私は学部生の4年間を神戸大学で過ごしました。中国人民大学への1年間の交換留学に参加するなど、学部生時代は中国語学習に特に力を入れて取り組んでおり、その中で「学部で身につけた中国語を使って学問に取り組んでみたい」という思いが芽生えたため大学院進学を決めました。また、学部生の頃から国際文化学研究科の先輩方と関わる機会が多かったのですが、いつも優しく真面目な先輩方が輝いて見え、憧れの先輩方のようになりたいと感じたことも、大学院に進学したいと思った理由の1つです。

学部の卒業論文では日本語を母語とする中国語学習者における動機づけの変化要因を扱いました。大学院では中国語を母語とする日本語学習者におけるカタカナ表記の外来語習得について研究しています。卒業論文の執筆の際に見えた反省点や改善点が山にあるので、修士課程ではより良い修士研究レポートを執筆することを最終的な目標として、努力を重ねていきたいと思っています。

さて、私は学部の頃から同じキャンパスに通っているのですが、実際に大学院に入学してから肌で感じたこととして、大学院ではどの先生方、先輩方、同級生たちとも密なコミュニケーションをとれることが挙げられます。講義もせまも少人数で行われることがほとんどなので、より近い距離で先生に指導を仰いだり、友達と相談、協力しあったりすることができます。また、多様なバックグラウンドをもつ学生がいることも本コースの特徴で、これが言語コミュニケーションの研究をする上で大きな刺激となっています。これから先、皆さんと一緒に研究できる日が来ることを心待ちにしています。

## 修了学生からのメッセージ

## 韋 恩琦さん

(2023年度博士後期課程修了)

研究テーマ：JSL学習者による場所を表す格助詞「に」、「で」、「を」の学習における訂正フィードバックの効果に関する研究

現在、追手門学院大学共通教育機構専任講師



私は中国の大学で日本語を専門として2年間勉強をしました。その後、大学三年生の時に日本の大学に留学したことをきっかけに来日しました。日本に来てからは、教科書で習った日本語と日本語母語話者が実際に使用している日本語との差に気づき、博士前期課程では三者会話場面における中国人日本語学習者と日本語母語話者の会話の仕組みについて研究しました。しかしその後、日本に長年滞在している人や、日本語能力試験N1級に合格した上級レベルの学習者でも、日本語の格助詞などの習得困難項目を母語話者と同様には使いこなせないという問題を新たに認識しました。そこで、博士後期課程ではどのようなフィードバックを学習者に与えれば、より効果的に第二言語を習得できるのかについて研究しました。

言語コミュニケーションコースでは、第二言語習得 (SLA)、翻訳理論、対照言語学、認知言語学など多様な言語学に関する専門知識を、一流の先生方の下で学べる環境が整っています。また、学術的な知識だけでなく、自立的な思考力、さらに社会人としての心構えと「人間力」についても学習できます。言語学を探究したい人にとって、最高の場所であると私は思います。

私は在学中、専門分野の学習だけでなく、在日外国人児童への支援活動及び、トロント大学と神戸大学が企画した英語プログラムへの参加、さらには指導教員からもティーチングアシスタント (TA) やリサーチアシスタント (RA) といった貴重な機会をいただきました。これらのお仕事に従事することを通じて、自身の弱みや不足点を少しずつ改善しつつ、人間の基礎力、批判的な思考力と総合的な学習力も身につけられたように思います。

最後に、改めて研究科の先生方には感謝の気持ちを表したいと思います。国際文化学研究科はまるで自分のもう一つの「Family」のような存在です。皆さんもぜひ私たちの「Family」の一員になってください!

## Q&amp;A

## 言語コミュニケーションコースの授業の特徴としてどのようなことが挙げられますか?

本コースの教員は、留学生に対する日本語教育や日本人に対する外国語教育について豊富な経験をもっています。したがって、教育経験に基づく疑問点・問題点が絶えず授業の中心にあり、問題解決を念頭においた授業を行なっています。

## 本コースではどのようにして修士論文や博士論文のテーマが決められているのでしょうか?

本コースでは、入学してきた学生の問題意識や関心・興味を第一に考えています。したがって院生は、指導教員と相談しながら自らテーマを決めることになります。

## 佐川 寛知さん

(博士後期課程 3年)

熊本県立大学文学部卒業

研究テーマ：E. サイデンステッカーの翻訳論—自由間接話法に着目して—



「いや、アンタ、なんでその人の目線でしゃべってんのよ(笑)」  
「それ、一体だれ目線だよ(笑)」

——とツツコミたくなる瞬間が、ときにコミュニケーションの中で起こったりしませんか? このような瞬間は日常的なコミュニケーションの場だけではなく、小説の「語り」の中でも現れることがあります。「誰目線でこれは語られている? 登場人物? それとも語り手?」という瞬間がまさにそうです。これは自由間接話法という小説における表現技法の一つです。私は、学部時代に好きな翻訳家であるサイデンステッカーの翻訳でこの技法を見かけました。しかし日本語原文を読んでも「自由間接話法らしさ」を感じる事ができませんでした。これが私の研究の出発地点です。日本文学の翻訳家サイデンステッカーの文体を通して、日本語のどんな要素が、何が自由間接話法になるのか、どうして自由間接話法として翻訳されたのか。これらを追求することが私の研究です。

言語コミュニケーションコースでは、このような研究を支えるための見識を広げられます。言葉による表現技法を別の「目線」で見れば、レトリック (修辞技法) とも言えます。さらに別の「目線」で見れば、私の研究は、ある翻訳家の翻訳手法についての分析とも言えます。また、他の「目線」では、物語における視点についての研究、物語論からの分析とも言えます。どれも日本の大学院ではあまり扱われていない分野です。しかし、このコースは、レトリック、翻訳研究、物語論の全てを扱っている数少ない大学院です。私の研究のような、言語コミュニケーションにまつわる学際的な研究ができるのは、ここだけでしょう。言葉の巧みな使い方とはいかなるものか、翻訳とは何か、物語の構造はどうなっているのか。このコースでは「言語コミュニケーションとは何か」が追求できる環境が用意されています。このコースでは是非一緒に研究テーマを追求しましょう。

言語コミュニケーションコースでは、このような研究を支えるための見識を広げられます。言葉による表現技法を別の「目線」で見れば、レトリック (修辞技法) とも言えます。さらに別の「目線」で見れば、私の研究は、ある翻訳家の翻訳手法についての分析とも言えます。また、他の「目線」では、物語における視点についての研究、物語論からの分析とも言えます。どれも日本の大学院ではあまり扱われていない分野です。しかし、このコースは、レトリック、翻訳研究、物語論の全てを扱っている数少ない大学院です。私の研究のような、言語コミュニケーションにまつわる学際的な研究ができるのは、ここだけでしょう。言葉の巧みな使い方とはいかなるものか、翻訳とは何か、物語の構造はどうなっているのか。このコースでは「言語コミュニケーションとは何か」が追求できる環境が用意されています。このコースでは是非一緒に研究テーマを追求しましょう。

## 朱 蔭琳さん

(2020年度博士後期課程修了)

研究テーマ：コミュニケーション摩擦場面から見た通訳者の倫理—中国の日系企業における社内通訳者を中心に—  
現在、愛知大学現代中国学部嘱託助教

私は大学卒業後、中国の日系企業に翻訳・通訳者として入社して仕事をしました。そこで翻訳・通訳の現場における異文化間コミュニケーションの問題に直面し、その解決策を探る中でトランスレーション・スタディーズに出会いました。翻訳研究という学問は幅広くて包容力があり、言語学や異文化間コミュニケーション論は勿論、社会学や文化人類学など様々な分野の理論も取り入れ、様々な切り口から実際の翻訳・通訳行為を解明しようとしています。このような学問をさらに追究したいと思い、在学中、私は言語コミュニケーションコースをはじめ、他コースの授業を履修して分野をわたり知識を学び、博士論文では通訳者の倫理に重点を置いて研究しました。授業で先生方の話を聞きながら他の院生たちと議論を交わし、多様な視点を得ながら学ぶことができました。

また、博士論文に対しても指導演習や報告などを通して、指導教員をはじめ、コース内・研究科内の先生方からきめ細かなご指導をいただきました。留学生活や進路などプライベートの悩みに関する相談も親切に乗っていただき、大変お世話になりました。博士前期課程において日本語教師養成サブコースを履修したことで、教育学、第二言語習得論などの内容や、他コースの方々と意見をシェアしたり、模擬授業をしたりする経験は、現在の仕事にも大いに役立ちます。さらに、授業のみならず、院生研究室でも交流の機会がたくさんあり、各自の言語や文化などについて話し、「カルチャーショック」を受けることも大きな楽しみです。

このように、国際文化学研究科・言語コミュニケーションコースで過ごした楽しくて充実した5年間は私にとって大切な思い出です。皆さんもぜひここで、多様な文化や多様な観点とぶつかりながら、好きなことを研究して頑張ってください。

## 指導教員にしか論文指導をしてもらえないのでしょうか?

例えば前期課程では1年次後期から2年次後期にかけて、計3回程度コースの教員・院生の前で修士論文・修士研究レポートの中間発表をする機会を設けています。つまり、修士論文・修士研究レポートの作成をコース全体でサポートする体制をとっています。

# 感性コミュニケーションコース



人と人との間のコミュニケーションにおいて要求されることの一つは、気持ちを通じあうことでしょう。しかし実際のコミュニケーション場面においては、たとえば「言葉は通じているのに気持ちが通じていない」と思える場合があります。この場合、「気持ちは通じていないか」「言葉(音声)は本当に通じているか」といったベーシックな問題について検討する必要があります。感性コミュニケーションコースは、コミュニケーションの過程を音声生成など身体的なプロセス、心理学・脳科学など認知的なプロセスの水準から探求します。またネイティブの発音に近い発音を可能にする方策、対人関係を改善する技法といったプラクティカルな問題についても学生の皆さんと一緒に研究を行っています。

**進路実績** (前期課程) ユニクロ、アステラス製薬、イーオン、ATR Learning Technology、ANA(全日空)、(中国の国立)中国銀行、神戸市(上級行政職)、航空大学校、島津製作所(上海)  
(後期課程) 理化学研究所、神戸大学国際化学研究科、韓山師範学院、神奈川県科学捜査研究所、国立障害者リハビリテーションセンター研究所、日本学術振興会特別研究員(PD)、武漢大学、パナソニック、京都精華大学、情報通信研究機構(NICT)、東北大学、大阪大学

**在籍学生数** (前期課程) 6名  
(後期課程) 2名

**論文テーマ例** (前期課程) 注意、ワーキングメモリ、情動、視覚認知、表情、音声コミュニケーション、外国語発音における母語干渉、エラーニング、社会性、マルチモーダル分析  
(後期課程) 数表象、プライミング、視覚的注意、外国語音声習得のメカニズム、音声の産出と知覚、ボライトネス

## 所属教員の紹介

### 林 良子 教授 言語行動科学論特殊講義ほか

音声科学・心理言語学。日本語や諸外国語における音声の特徴や、外国語を学ぶときの発音の困難点などについて実験的手法を用いて研究しています。言語障害や言語発達、各国における音声コミュニケーションの教育方法の比較についても興味があります。

### 松本 絵理子 教授 コミュニケーション認知論特殊講義ほか

認知心理学、認知神経科学。人間の知覚、行動、記憶、注意といった認知活動について、心理実験や脳活動計測などの手法を用いて研究しています。特に、注意について、不安やストレスなどの個人特性が及ぼす影響や、どうして表情や恐怖の対象には注意が素早く向けられるのか、等について関心があります。コミュニケーションの背景にある人間の行動や認識の傾向を認知心理学的というのぞき窓を通じて探ってみませんか。

### 北田 亮 教授 非言語コミュニケーション論特殊講義ほか

心理物理学・生理学など複数の方法を活用して、知覚から社会認知に至るまで様々な認知神経科学的な研究を行っています。特に複数の感覚機能に着目して、どのように先天的な要因と後天的な要因が絡み合うことで私たちの知覚や認知能力が形成されるのかに興味があります。これらの研究を通じて未来の研究の土台となる枠組みを提案することを目指し、様々な分野の研究者との連携により成果の社会実装への道を探ります。

### 異 智子 准教授

第一言語習得、心理言語学。私たちはどのように言語を習得するのか、を中心のテーマとして研究をしています。また、言語変化、発達語用論、コミュニケーションと言語の関係など色々なテーマに関心があります。実験やコーパスデータの分析を通じて言語を探る、活発な研究の場を創りたいと考えています。

### 牧田 快 講師 コミュニケーション文法論特殊講義ほか

認知心理学、神経科学、発達・発達障害、言語学。主に脳構造・脳機能画像法を用いて、発達の違いによる脳構造の変容の度合いや、単語学習のような特定の課題遂行中の脳活動の測定などを通して、ヒトの発達、知覚、学習といった認知機能・行動について研究しています。なお研究では、いわゆる文系、理系という垣根を越えて、分野横断・融合的な観点から深化したいと考えています。

## 所属学生からのメッセージ



## 福川 さくらさん

(博士前期課程 2年)  
神戸大学国際人間科学部卒業  
研究テーマ:「注意による選択への影響・不安特性による注意への影響」

私が大学院への進学を決めたきっかけは、学部時代にニューヨークへの交換留学が決定していたものの、コロナの影響で中止になってしまい、休学をするか悩んでいたところ、先生に大学院進学という選択肢を教えていただいたことがきっかけでした。国際文化学研究科は、博士前期課程の学生でも交換留学をすることができる協定校が多く、先生たちも留学を応援してくださっていて、他の大学にはない魅力であると思います。きっかけは、交換留学への再挑戦でしたが、学部時代から、私たちはものを見るとき、ものを選ぶとき、何か行動をするとき、何かを考えているとき、それらを意識的に行っているのか、あるいは、無意識的に行っているのか、どんなものに影響されているのかなどについて興味があり、卒業研究では、外因的な注意が顔を見たときの魅力度と信頼性を増加させるかについて心理学実験を用いた研究を行いました。国際文化学研究科に入学後は、特殊講義やゼミ、演習などを通して、新たな知識を学びながら、現在は、個人個人が持つ不安の度合いが、私たちがタスクを行うときにどのように影響するかについて、実験を用いながら明らかにしようと、関連する文献を読みながら研究計画を組み立てています。

本コースには、心理学だけではなく言語学を専門とされる先生も所属されているので、自分の研究に対して、心理学とは異なる視点からアドバイスをいただけることから、自分では気付くことができない改善点を見つけられ、自分の研究をより深めることができるとしています。今後は、本学だけでなく留学先でも専門的な知識を学びながら、社会に貢献できる研究を進めていきたいと考えています。



## 王 可心さん

(博士前期課程 3年)  
中国人民大学外国語学部卒業  
研究テーマ:「丁寧な発話様式と発話意図に関する音声的特徴」

私の出身大学と神戸大学とは協定校であり、毎年4名ほどの学生が交換留学制度を利用して神戸大学に留学しています。交換留学を経験した学生たちの話を聞いて、中国にいた頃から神戸大学の魅力を感じていました。大学三年生の時、日本語音声学に興味を持ち始め、留学することを決めました。当時大変お世話になっていた神戸大学で修士課程を修了した日本人の先生に推薦していただき、無事に神戸大学大学院国際文化学研究科に入学することができました。

私たち外国人が日本語を勉強する動機はさまざまですが、一般的にはアナウンサーのようにきれいな日本語を話すより、自然な会話をして気持ちよくなりたいという方が多いでしょう。その際に、失礼な話し方をして品のない人だと思われるくないですね。この社会的文脈に応じた「丁寧さ」に関しては、文法の問題だけではなく、音声にも大きく関わるものです。同じ言葉なのに違う音声で話すと全く違うように聞こえます。しかし、学習者にとって発話場面や対話者に応じた言葉を適切な音声で話すことは容易なことではありません。例えば、「ボールペン貸してください」というたった一言の依頼表現でも、それを丁寧に話さずか、恐縮して話さずか、または強い語気で話さずかによって、対話者が受ける印象は大きく変わります。このような話し方や伝え方による意味の微妙な違いは、音声コミュニケーションの醍醐味だと思っています。

感性コミュニケーションコースには、言語学だけではなく心理学の先生もいらっしゃいますので、異なる視点から指導を受けられるのが1つの大きなポイントだと思います。私も実際に心理学の授業をとり、感情や表情などについて勉強しました。この領域について視野が広がる一方、自分の研究にも活かせる学びをすることができたと思います。今後は、さらに専門的な知識を学び、さまざまな学会や研究会に参加し、音声学研究の最前線において、どのような研究がなされているのかをもっと知り、吸収したいと考えています。

## 修了学生からのメッセージ



## 宿利 由希子さん

(2018年度博士後期課程修了)  
群馬大学社会情報学部卒業、東北大学文学研究科博士前期課程修了、神戸大学大学院国際文化学研究科博士後期課程修了。研究テーマは「行為者のキャラに着目したボライトネス研究」。現在、東北大学准教授。

韓国、香港、ロシアなどで日本語教育に携わってきました。非母語話者である日本語学習者が、教室で学んだ日本語を完璧に話しても、日本語母語話者が「何その言い方!」「失礼な!」と不機嫌になる場面に何度も遭遇し、なんとかしなければと神戸大学国際文化学研究科受験を決意しました。博士論文では、発信者がどのような「キャラ(人物像)」かによって、受信者の評価が異なることを示すことができ、これまでの画一的な日本語教育の限界を指摘できたと感じています。

博士課程は、非常勤で日本語を教えながらという二足の草鞋の3年間でした。心配はありましたが、先生方のご指導や(年下の)先輩方のご助言のおかげで、博士論文を書き上げることができました。感性コースでは、さまざまなご専門の先生方から多角的なご指摘をいただき、大変鍛えられました。

大学、特に博士課程は自分で学ぶところだと私は思っています。どんな学会で発表し、どんな論文を投稿して、研究を進めていくか。



## 川島 朋也さん

(2018年度博士後期課程修了)  
神戸大学国際文化学部卒業、神戸大学大学院国際文化学研究科博士前期課程修了、神戸大学大学院国際文化学研究科博士後期課程修了。研究テーマは「注意制御機構の認知神経科学的研究」。現在、金沢工業大学講師。

ヒトがどのようにものを見たり記憶したりしているのかに興味があり、この感性コースに進学しました。ヒトの注意や記憶などは目に見えないものですが、心理実験や脳機能計測によってそのこころの活動に迫ることができます。本コースにはそのための行動実験室や脳波計測室などの充実した設備があります。また、ヒトを対象とした研究では、専門的な知識だけでなく、その周辺領域を含めた幅広い知識が必要です。その中で本コースは、さまざまな領域の先生から指導を受ける環境にあり、一つの学問領域に閉じこもることなく広く諸領域から自身の研究を見直すことができます。

本コースにはさまざまな国や地域からの学生が集まります。多文化なバックグラウンドをもつ学生同士の交流は、自身の視野をいっそう広げてくれます。感性コースにご関心のある方は、研究室の訪問だけでなく、ぜひ院生室にお越しください。

## Q&amp;A

感性コミュニケーションに入るには、心理学や脳科学と、言語学、コミュニケーション論などを全部勉強していないと、ダメなんでしょうか。

そんなことはありません。とりあえず、どれか、で結構です。

言語について研究したいと思っているのですが、このコースと言語コミュニケーションコースはどう違うのですか？

感性コミュニケーションでの言語研究は、自然に発話されたデータや、様々な機器を使って実験的に計測を行ったデータを主に扱います。またパラ言語と言われるいわゆる伝統的な言語学ではあまり扱われてこなかった分野(例えばため息、沈黙、声の

音色など)や視覚情報(目線、表情、口の形、ジェスチャーなど)も含めて研究したいという方、実験して色々測ってみようという方には当コースをお勧めします。

脳の研究をやりたいのですが、どんなことが可能ですか？

感性コースでは、脳波計、光トポグラフィーを使って脳機能計測実験を行うことができます。もちろん、精密に計画して組んだ心理学実験によって、認知情報処理が脳内でどのように行われているかを検討することも可能です。チャレンジをお待ちしています！

# 情報コミュニケーションコース



情報コミュニケーションコースは、コンピュータやインターネットに代表される、情報通信技術を用いたコミュニケーションについての教育・研究を行うコースです。当コースでは、インターネットにおける最新の情報発信技術、コンピュータを用いたコミュニケーション情報の収集・分析・整理方法といった、すぐに活用できる高度な情報処理技能の習得や、将来におけるより効果的なコミュニケーションの実現を目的とした情報通信技術の研究・開発を行なっています。

**就職実績** (前期課程) 株式会社DeNA、日本IBM、チームラボ株式会社、日本電気株式会社、西日本電信電話株式会社、滋賀県立成人病センター職員、コベルシステム株式会社、スミセイ情報システム株式会社、富士通FIP、東京農工大学職員、神戸情報大学院大学准教授、富士通ビー・エス・シー、神戸情報大学院大学職員、グッドスカイ(株)、中国電信北京支社、中国広発銀行、野村総研、アクセンチュア、ヤマハ発動機株式会社、セゾン情報システムズ

(後期課程) 大阪大学大学院基礎工学研究科特任助教、立命館大学情報理工学部講師、神戸情報大学院大学助手、神戸女子大学助教、大阪産業大学講師、北九州市立大学准教授、大妻女子大学短期大学部准教授、中国国家核電エンジニア、台湾実践大学講師、廈門理工学院講師、関西学院大学理工学部研究員、鹿児島純心女子大学人間教育学部准教授、株式会社NTTデータ技術開発本部研究開発職、大手前大学現代社会学部講師

**在籍学生数** (前期課程) 7名  
(後期課程) 6名

**論文テーマ例** 情報科目学習形態分析、文書の自動分類、XML検索法、IT技術者向け学習システム、外国語学習システムにおける誤りレベル判定機能、記憶の仕組みを活用した学習システム、質問支援システム、コミュニケーション指向の都市評価、逆引オノマトベ辞典、ユーザインタフェース、コミュニケーション支援、ニューラルネットワークによるコンピュータ「錯視体験」

## 所属教員の紹介

### 康敏 教授 コンピューター・シミュレーション論特殊講義ほか

情報通信技術の情報教育及び外国語教育への応用に関してコミュニケーションの視点から研究・開発を行っています。特に統計的アプローチを用いてユーザのニーズにあった情報を提供することユーザの特徴を抽出することに焦点を当てています。

### 清光 英成 教授 情報ベース論特殊講義ほか

データベースシステムやWeb情報システムを用いてデータを高次利用することを目的としています。アクセス履歴などの利用者プロフィールや場所・時間などの状況を参考に「いつもの」という入力に利用者個別の答えを出力することをテーマにしています。

### 西田 健志 准教授 計算科学応用論特殊講義ほか

情報システムの操作性を向上するユーザインタフェースの研究、人どうしのやり取りを円滑にするコミュニケーションシステムの研究をしています。特に、意見がまとまらない、批判的な意見が言い出せない、外国語が流暢でないなど、コミュニケーションがうまくいかない状況を情報と心理の両面から見つめ直すこと、開発したシステムを実際に運用して知見を得ることを重視しています。

### 村尾 元 教授 認知情報システム論特殊講義ほか

生物に倣った「柔らかい情報処理」の技術を用いて、人間をはじめとする生物の集団に現れる知的な振る舞いの分析と応用について研究をしています。対象となるのは、人間などの個体が構成する小さな集団から、社会、経済、インターネットまで様々です。  
キーワード：社会システム科学、機械学習、データサイエンス

### 大山 牧子 准教授 教育システム情報論特殊講義ほか

教育工学の枠組みで、大学の授業を効果的で効率的にするための手法やシステムを開発する研究を行っています。中でも学びを深める思考形態であるリフレクションに関心を持っており、リフレクションが学習効果にもたらす影響の分析やリフレクションを促すツールの開発に取り組んでいます。

## 所属学生からのメッセージ

## 蘇 杭さん

(博士前期課程 2年)

神戸大学国際人間科学部卒業

研究テーマ The more you finish, the more you see: motivating yourself by placing to-do blind panels on your favorite internet contents while working with others



学部時代にプログラミングや情報リテラシーの授業を受け、自分でプログラムを一から作り、最終的に動くものになるのを体験して、プログラミングに興味を持つようになりました。

学部の卒業研究では、部分的な成果に部分的な報酬を与えるタスク管理手法を提案し、それに基づいてタスク管理システムを開発しました。大学四年生の時に、研究をさらに深めたいと考え、情報コミュニケーションコースへの入学を希望しました。

本コースでは、様々な分野に触れることができ、複眼的なアプローチで学際的な研究を行うことが可能になります。私は現在、複数のユーザが同時にタスク管理ツールを使用し、共同の目標を目指しながら作業を進捗を共有することで、タスクの達成度の向上とコミュニケーション促進効果について研究をしています。情報コミュニケーションコースで、プログラミングとコミュニケーションに関する授業を受け、コミュニケーションをより円滑に進めるシステムの開発について学習をしています。

情報コミュニケーションコースでは、多様なバックグラウンドを持つ学生たちとの交流ができ、研究で何かに困っている時は先生や先輩から熱心なサポートを受けることができます。情報分野に興味がある方、このような充実した環境と一緒に研究することを期待しています。

## 修了学生からのメッセージ

## 藤田 直樹さん

(2023年度博士前期課程修了)

神戸大学工学部卒業

研究テーマ:「生体情報の類似性強調による一体感創出手法」  
現在、明治安田生命保険相互会社勤務

私は学部時代は工学部に所属し、情報技術を用いたコミュニケーション支援をテーマにした卒業研究に取り組みました。大学院でも同じテーマに取り組み、研究をより深めたいという考えから、本研究科の情報コミュニケーションコースに進学しました。

本コースでは、もともと興味があるテーマに取り組むことも、新たなアイデアを考えて研究を進めることもできます。どちらの場合でも先生は相談に乗ってくださり、情報や知識、必要な物品を提供して研究をサポートしてくれます。すでにやりたいことが明確な学生はもちろん、まだ興味の方向性がぼんやりしているような学生も、本コースであれば不安なく研究を行うことができると思います。定期的な進捗の確認に加えて、学会などの中間的な目標も設定することができるので、研究のモチベーションも維持できるでしょう。自分で管理するとついだれてしまうという学生も、しっかり研究に取り組める環境です。

また、情報通信と言えばプログラミングが付き物と考えて、プログラミング経験が少ないことに不安を感じる人もいます。私もプログラミングで何度も詰まることがありましたが、その度に先生に相談することでスムーズに解決できました。今までの経験に関係なく、情報や通信を活用する研究をしたいという人は、思い切って挑戦してください。

## Q&amp;A

大学では情報や通信の専門的な勉強はしてきていないのですが、大丈夫でしょうか？

当コースを選ぶにあたっては、必ずしも、理工系の情報通信を専門とする必要はありません。高度な情報通信技術を学び、それらを自分の専門分野に生かそうという意欲をもった院生を歓迎します。

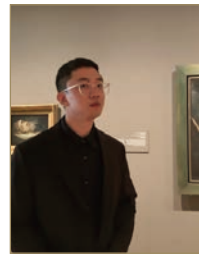
## 王 笑難さん

(博士後期課程 2年)

廈門理工学院デザインアート学部卒業

神戸情報大学院大学情報技術研究科修士課程修了

研究テーマ:「能動的学習データをを用いた学習過程の把握と活用」



情報コミュニケーションコースに入学した当初、新型コロナウイルス感染症は大学の教育に大きな影響を与え、多くの教育機関で遠隔・オンライン教育が実施されました。同時に、インターネット上の閲覧や解答等の活動履歴に加え、講義中の映像や発話情報などの多様な教育・学習データも蓄積されるようになりました。その時、私は教育技術に強い関心があり、これらの多様な教育・学習データを、学習者のために活用しようとする機運が高まっていると考え、情報コミュニケーションコースに入学を希望しました。

現在の研究は、遠隔教育で教員と学生とのコミュニケーション問題に焦点を当て、学習者の能動的学習情報に基づき、学習過程の把握と学習者特性の分析を研究しています。研究に関して、先生たちは学生の考えを尊重し、いろいろな挑戦を許容し、熱心な指導をいただけます。また、先生と学生の距離が近く、いつも気軽にコミュニケーションできます。研究室では、多様な背景を持つ学生が互いにコミュニケーションする機会を提供し、自由で気楽な研究環境があります。

情報コミュニケーションコースでの学びは、単にIT技術ことではなく、情報技術を用いて社会的、教育的な課題を解決する力と、自分の考えの整理、証拠に基づいた議論の展開、複雑な情報を聴衆に効果的に伝える研究スキルも学んでいます。日々研究室の仲間や教授との意見交換は、私の研究をより深く、より広い視野で進める助けとなっています。

## 前川 絵吏さん

(2023年度博士後期課程修了)

研究テーマ:「テキスト平易化のためのコーパス自動生成と評価に関する研究」

現在、大手前大学現代社会学部講師



私は社会人のときに大学院への進学を希望し、前期課程では仕事との両立を図りながら研究を進めていました。前期課程では一定の単位を取得するために授業を履修しなければなりませんでしたが、そのため、午前中は別の学校で教員として授業を行い、午後は大学院で学生として授業を受けるというような忙しい日々を送っていました。後期課程に進学すると、JSTのSPRINGプロジェクト<sup>(\*)</sup>として支援を受けながら研究に専念することができました。自然言語処理に興味を持って研究をスタートしましたが、この分野の研究は技術の進歩が目覚ましく、新しい論文を読むだけでも大変です。同じゼミに所属する学生と勉強会を開催したり研究について相談したりすることで、研究への意欲が高まりました。

本コースの特徴は文系の研究科でありながら、プログラミングやデータサイエンスに関わる研究に挑戦できることです。私の場合はプログラミングの経験はありましたが、機械学習やAIのプログラムを作ったのは大学院に入学してからです。先生方の専門は多岐に渡っており、異なる専門分野からの視点やアプローチを学びながらアドバイスを受けることで研究をより充実させることができました。コースの先生はよく院生研究室に立ち寄ってくださり、世間話をしたり、研究に関するアドバイスしてくださったりします。またここでは学生同士の知識や情報を共有する場となっています。情報コースにご興味をお持ちの方には、先生方の研究室だけでなく院生研究室にも足を運んでいただくことをお勧めします。

(\*) 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)次世代研究者挑戦的研究プログラム神戸大学「異分野共創による次世代卓越博士人材育成プロジェクト」

数学が苦手なのですが、ついていけるでしょうか？

当コースでは、最先端技術をより高めていくような技術革新といった研究ではなく、既存の技術がどのように使われるのか、また、より良い使い方はないのかといった応用面での研究を行なっています。仕組みを理解しその仕組みを工夫する事でどのような新しい活用ができるかを模索するには、より広い意味での理解力は求められますが、高度な数学を駆使することはほとんどありません。



# 外国語教育システム論コース



外国語教育システム論では、英語を中心とする外国語教育の基礎を担う言語学、心理学、言語表象作品分析など様々な領域の学際的知見を援用して研究を行い、それらを有機的・総合的に連関させることで、外国語教育のシステムの研究・実践にあたることができる人材の養成を行う。

本教育研究分野では、特に、

1. 言語学、心理学など関連諸分野の知見に基づく学際的な言語教育研究
2. 幅広い言語文化・表象作品の言語教授法への応用と方法論研究
3. IT教育など言語教育環境整備に関わる実践的研究
4. 言語習得、言語使用を取り巻く社会的・文化的要因に関わる研究
5. 心理言語学的研究により得られた知見の教育現場への応用
6. 教育現場における指導実習等の活動支援

を重視して研究指導を行っている。

## 所属教員の紹介

### 島津 厚久 教授 言語文化表象論特殊講義ほか

アメリカ現代文学。中でもユダヤ系アメリカ文学で、特に小説家バーナード・マラマッドの長・短編小説を「表現」の観点から読み解こうと試みています。

### 高橋 康徳 准教授 言語対照基礎論特殊講義ほか

中国語学、音声学、音韻論。中国語諸方言の声調に関する現象を音声学・音韻論の観点から研究しています。

### 濱田 真由 助教 言語教育環境論特殊講義ほか

心理言語学、外国語教育。第二言語・外国語での言語処理時のプロセスについて検証し、得られた知見を外国語教育にどのように応用することができるのかについて検討しています。

### 廣田 大地 准教授 言語文化環境論特殊講義Ⅰほか

フランス文学。ボードレールを中心とした近代フランス詩を研究対象とし、その詩学を言語学的観点から記述することを目標としています。他にも WEB やコンピュータを用いた文学研究・語学教育に関心があります。

**進路実績** (前期課程) 香川県立高等学校、千葉県私立高等学校、大阪府立高等学校、神奈川県立高等学校、兵庫県立高等学校、他  
(後期課程) 兵庫教育大学、神戸学院大学、近畿大学、自然科学研究機構、神戸市工業高等専門学校、立命館大学、桃山学院大学、びわこ成蹊スポーツ大学、他

**在籍学生数** (前期課程) 5名  
(後期課程) 6名

**論文テーマ例** (前期課程)  
・ Argumentative essays written by high school students: The relationship between holistic scores, linguistic complexity, and meaning complexity  
・ How reading aloud and shadowing affect the acquisition of L2 grammar knowledge by Japanese EFL learners  
・ The effects of story retelling on vocabulary acquisition by Japanese EFL learners  
・ 外国語としての英語教育環境における多読授業デザインに関するシステムティックレビュー  
・ 韓国語を母語とする日本語学習の韻律的特徴とその習得 一釜山方言話者の日本語学習者を中心に  
・ 国際交流プログラムにおける日本人高校生の発話の変容に関する研究  
(後期課程)  
・ Coaching discourse and linguistic resources for player-centered training: A case study of three professional football coaches  
・ L1 and L2 lexical network of Chinese EFL learners: Focusing on the effects of semantic category relationship and L2 vocabulary knowledge  
・ Processing mechanisms in the comprehension of ambiguous sentences by Japanese learners of English: Does implicit learning occur through repeated exposure?

### 保田 幸子 教授 言語科学論特殊講義ほか

第二言語習得論、第二言語ライティング、ジャンル分析、カリキュラム開発。「第二言語で書く」という行為をめぐる、書き手の方略やジャンル意識、言語的・文体的特徴に焦点を当てた研究を行っています。これらが長期的にどのように変化するか、なぜ変化するかという発達プロセスを明らかにすることが研究テーマです。

### 安田 麗 講師 言語文化環境論特殊講義Ⅱほか

音声学、ドイツ語教育。外国語の音声習得、発音指導に関して、音声学的観点よりドイツ語、日本語を含む様々な言語を対照しながら研究しています。

### 横川 博一 教授 言語教育科学論特殊講義ほか

英語教育学・心理言語学。第一言語および第二言語のリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングおよび語彙の認知処理メカニズムとその授業実践への応用可能性を探ることが主な研究テーマです。

## 所属学生からのメッセージ

## 高砂 千聡さん

(博士前期課程 2年)

大阪女子大学 (現大阪公立大学) 学芸学部卒業

研究テーマ: 「CLIL 授業の TASK における内容と言語の統合に関する考察」



大学卒業後は、英語教員として大阪の公立高校や私立中高等学校に勤めておりました。そして教育現場で様々な英語指導法を経験する中で、CLIL (Content and Language Integrated Learning) という教授法に出会い、大変興味をもちました。それ以来、研究会等で勉強しながら勤務校でもCLILの実践を重ねておりましたが、やりがいを感じる一方で実践を通して見えてくる課題があり、面白いと思うことを追いかけてみたいという思いから、大学院で学ぶことにしました。本コースの授業では、外国語教育についてあらためて、様々な理論に基づいて考えることができ、また得られた知見を現場でどう応用するかを考える実践的な学びができます。そして定期的に行われる集団指導では、自身の研究の進捗を発表し、指導教諭の先生をはじめコースの先生方から助言をいただくことができますし、常に相談に乗っていただける環境があり、とても有難く、忙しくも充実した学びの日々を過ごしています。

また、私は日本語のサブコースも履修していますが、コースを超えた科目の授業は視野を広げ新たな視点を与えてくれますし、研究科全体が留学生や様々なバックグラウンドを持つ院生と共に学ぶ場になっていることもよい刺激になっています。このような環境に身を置き研究に取り組めることをとてもうれしく思っています

## 修了学生からのメッセージ

## 山田 美咲さん

(2013年度博士課程前期課程修了)

研究テーマ: 「日本語会話における中国人学習者のスピーチスタイルに関する一考察」

現在、神戸野田高等学校国際語科教諭



大学学部時代に中国へ1年間留学し、日本語を勉強する多くの中国人学生と出会いました。お互いに母語を教えあう中で、日本語を上手く伝えることのできないもどかしさを感じ、大学院進学を決意しました。神戸大学国際文化学研究科では、言語学や教育学に関する基礎的な知識を学ぶことができるとともに、教育現場に直結する実践的な内容に取り組む授業も受講できることが魅力的です。私は、各国から神戸を訪れた留学生とグループで調べ学習をしたり、留学生の日本語の授業に入ってサポーターをしたりしました。その結果、基礎から実践まで幅広い内容を身につけることができました。

自身の研究では、誤用が多く、習得が困難とされている敬語に着目し、進めていきました。状況や相手によって使い分けが必要なスピーチスタイルを、中国人母語話者は実際にどのように用いているのか、調査をしていきました。参考となる論文を踏まえ、調査計画を立て、実行に移していく中で、指導教員の先生をはじめ、コース、および研究科の先生から多くのアドバイスをいただきました。その都度、改善していきながら研究に専念することができたのは、熱心な先生のサポートのおかげです。この二年間で、一つのことに深く向き合い、新しい視点で物事を考えることができるようになりました。この成果は私にとって大きな自信となり、今の生活にも繋がっています。この素晴らしい環境で、ぜひ、皆さんにも充実した学生生活を送ってほしいと思います。

## Q&amp;A

## 外国語教育システム論コースとは、どのようなことを研究するコースでしょうか？

外国語教育システム論とは、外国語教育の基盤となる基礎研究の知見について理解を深め、学際的な立場から新しい時代の外国語教育のあり方を探求しようとするコースです。

## 外国語教育システム論コースでは、どのようなことが学べるのでしょうか？

このコースでは、外国語教育のシステムを支える、言語学・心理言語学、外国文学、文化学について広く学びながら、外国語教育の研究を行ったり、実践力を身につけることができます。また、英語のみならず、ドイツ語、フランス語、中国語、日本語などの言語を専攻する院生にも対応しています。

## 清水 保宏さん

(博士後期課程 2年)

神戸大学国際文化学研究所博士前期課程修了

研究テーマ: How reading aloud and shadowing affect Japanese EFL learners' grammatical knowledge and processing



私は高校の英語教員をしており、特に英語の文法習得に関心を持っています。文法はコミュニケーションの土台にあるべきものと考えていますが、従来から教えられている明示的な文法知識というより、それをダイナミックに活かし、自在に文法を操る統語処理の習得が重要だと考えています。そのような習得のために音読・シャドーイングが有効であるという自身の体験や信念に基づき、それを科学的に実証したいと考え、3年前に外国語教育システム論コースの扉を叩きました。入学以来、実験に実験を重ね、研究活動に邁進しています。

システム論コースでは、他のコースもそうかもしれませんが、前期課程においても後期課程においても指導教員の先生による丁寧で熱心な指導を継続的に受けつつ、自分が研究したいと志したテーマについて研究することができます。年3回の集団指導の折には、コース内の他の先生方からも多様な観点でのアドバイスをいただき、自分の研究をよりよい方向へ修正していきます。開講される講義や演習を通じて、先生方からインスピレーションを得たりや温かい激励を受けたりし、また、授業内外における院生同士のディスカッションにより互いに学び合ったり切磋琢磨したりすることが日常のこととなっています。

カリキュラムにおいて最重要なのは研究であり論文作成であるため、在籍中の学生はみんな全力で研究活動に取り組んでいます。そして、1人1人が質の高い研究を行っていると感じます。そういった雰囲気と環境がまた、日々研究を進めていく上での原動力の1つになります。システム論コースは、言語教育に関わる研究をするには非常に恵まれた環境だと思います。

## 九鬼 雅史さん

(2023年度博士前期課程修了)

研究テーマ: 「高校生英語学習者によるアーギュメンタティブエッセイ— 全体的評価と言語的・意味的複雑性の関係—」

現在、香川県立高等学校英語科教諭



私は大学4年次の教育実習の経験から外国語教育システム論コースでの研究に興味を持つようになりました。授業を通して理想と現実のギャップに直面することが何度もあり、中でもライティング指導について悩む時間が多くありました。実習を終えても「これからのライティング指導はどうあるべきなのか」という問いが心に残り続けました。そこで自分なりにライティング教育や英語でのライティング活動について調べてみると、第二言語ライティングという研究分野があることを知りました。大学院ではこの分野をご専門とされる先生の下で専門知識を深めたいと考え、本コースへの進学を決意しました。

本コースでは心理言語学や第二言語習得理論など、外国語教育に関する学問分野を幅広く学ぶことが可能です。例え学部時代に学んでいない研究分野であっても、先生方に手厚くサポートしていただける環境が整っています。また、本コースには集団指導という研究の進捗を発表する機会が定期的に設けられており、自分の研究の課題や今後の構想について深く考えることができます。先生方だけでなく、同じコースの院生からも貴重なアドバイスをいただき、研究に関する新たな発見や様々な示唆を得ることができます。

私自身、他大学からの進学で最初は不安を感じていましたが、指導教員の先生を始め、外国語教育領域に所属されている先生方からのきめ細やかな指導を受け、充実した院生生活を送ることができました。他大学から本コースへの進学に不安を感じている方もいらっしゃるかもしれませんが、安心して進学されることをお勧めします。

## 中学校・高等学校の英語教員志望ではないのですが、このコースには不向きでしょうか？

このコースは、英語の教員養成のみを目的としたものではありません。たとえば、外国語教育への応用を考えながら、心理言語学や音声学の研究を行ったり、外国語習得を意識しながら、アメリカ文学、フランス文学を専門とするなど、幅広くかつ深く学ぶことができます。

## 入学後は、コースが開講する授業しか履修できないのでしょうか？

外国語教育システム論コースに所属していても、他コースの授業を履修することが可能です。外国語教育システム論コースに開設されている授業科目を中心に、たとえば、外国語教育コンテンツ論コースが開講する授業科目を履修することができます。

# 外国語教育コンテンツ論コース



外国語教育コンテンツ論コースでは、新時代の外国語教育の創造に主体的に参画できる人材育成を目指し、外国語教育の内容・方法・展開に関わる研究を総合的に行っています。本コースでは、言語学（コーパス言語学・認知言語学・語用論・史的言語学）と教育学（授業論・指導法・教育工学）の学問的基盤をふまえつつ、特に、教育現場での実践的展開を見据えた研究に精力的に取り組んでいます。本コースにおいて、外国語教育を取り巻く諸問題に多面的にアプローチする能力を付けた修了生は、国内外の教育機関等で活躍しています。本コースでは、学部時代の専門にかかわらず、外国語教育を通して社会のグローバル化に貢献しようとする意気込みにあふれた学生の受験を歓迎します。

当コースでは、日々の研究指導の様子や、所属する院生・教員の活動状況をコースブログで発信しています。ぜひ一度、ご覧ください。



**進路実績** (前期課程) 小学校教諭、中学校教諭(尼崎市・神戸市)、高校教諭(兵庫県・滋賀県・岡山県・鳥取県・沖縄県)、東京大学附属中等教育学校教諭、神戸大学附属中等教育学校教諭(2)、神戸女学院中等部教諭、西大和学園中高講師、金沢大学非常勤講師、Sony Global Manufacturing Operations、(株)矢崎産業、(株)SONY Computer Entertainment、Taiwan、三菱電機、(株)白鳩(インターネット通販)、(株)日立ソリューション、富士通、他。

(後期課程) 外国人特別研究員(神戸大学)、近畿大学准教授、環太平洋大学教授、大阪大学准教授、広島国際大学専任講師、福井大学助教、筑波大学助教、神戸大学特任助教、大阪工業大学特任講師、関西外国語大学(非)、関西大学(非)、流通科学大学(非)、中南財経政法大学講師、山東科技大学講師、西安理工大学講師、中国東北大学講師、四川外国語大学講師、華南農業大学講師、他

**在籍学生数** (前期課程) 6名 研究科の中でも学生数の多いコースの1つです。助け合い、競い合って学べる環境が用意されています。  
(後期課程) 7名

**論文テーマ例** (前期課程) 「小学生のための基本名詞コロケーションリスト」「日本語書き言葉における「形容詞+条件節」の使用」「日本人英語学習者のライティングにおける英語習熟度とパラグラフライティングに対する知識・理解及びアウトラインの関連性について」「英語確信度副詞のコーパス研究」「日本語発話におけるオノマトペ調査」  
(後期課程) 「Some Interactional Practices Teachers Use to Pursue a Response from Students in EFL Classrooms」「作文に見る学習者のヘッジ使用」「学習段階の変化が日本語学習者の外来語使用に及ぼす影響：日本語学習者書き言葉コーパス」を用いた縦断調査」

## 石川 慎一郎 教授 外国語教育内容論特殊講義Ⅱほか

応用言語学の観点から、コーパス(大規模テキストデータベース)を使った英語・日本語の言語分析・教材分析・教材開発・語彙習得などを主として研究しています。あわせて、語彙処理の心理的機制や、小中高大での言語教育のカリキュラム設計、教授法・インストラクショナルデザインにも関心を持っています。科学的な視点から言語や教育の問題を考えてみたい学生を歓迎します。

## 柏木 治美 教授 外国語教育工学論特殊講義ほか

情報通信技術の学習環境への応用に関する研究を行っています。最近では、音声認識や生成AIを取り入れ、外国語や日本語で緊張せずに自身の意見や考えを話せるようになることを支援するためのコミュニケーション活動環境について検討しています。新しい技術を取り入れた学習環境の開発研究に興味を持つ学生を歓迎します。

## 木原 恵美子 准教授 外国語教授学習論特殊講義ほか

英語話者は構文をどのように選択しているのか、その背後にはどのような仕組みがあるのかを研究しています。英語母語話者だけではなく、英語学習者の話し言葉や書き言葉も分析しながら、英語の文法学習や教授法の研究を行っています。英文法の分析や記述に興味がある学生を歓迎します。

## Tim Greer 教授 第二言語運用論特殊講義ほか

言語表現とそれを用いる人との関係に関心を持っています。会話分析を始めとし、質的調査方法を使用し、第二言語語用論(L2 Pragmatics)を専門にしています。二ヶ国語で行う会話、オーラル英語能力試験での会話、日常会話など様々な場面で「言葉を使った社会的行為」を研究しています。また、言語教育、アイデンティティ構成、バイリンガリズム、などの研究も行っています。

## 佐藤 健 教授 外国語教育内容論特殊講義Ⅰほか

外国語習得における認知的プロセスについて研究しています。特に、多義的語彙・表現の理解と学習に焦点を当て、教材や教授法(特にICT学習環境)への応用を目指しています。研究アプローチは、認知言語学の枠組みを基本に据えつつ、近年では社会文化的な視点を取り入れた研究も展開しています。

## 芹澤 円 助教 言語対象応用論特殊講義Ⅰほか

歴史語用論の観点から、近世ドイツの印刷メディアにおける口語性・文語性、構文や語彙の分析をしています。また最近では、テキストと図像の関係性(ビジュアル・リテラシー)の分野にも関心を持っています。

## 陳 曉 講師 言語対照応用論特殊講義Ⅱほか

中国の近世、特に清代中後期(18世紀)から民国(20世紀中葉)までの北京語について、様々な言語資料を用いて北京語の特徴に関する研究を行っています。例えば漢漢合璧文献、諸外国の中国語教科書(明治時代の中国語教科書および西洋人が編んだ中国語教科書など)等における北京語の語彙、文法、音声及び歴史的变化についての研究を行っています。

所属学生からのメッセージ



**尾崎 祐真さん**  
 (博士過程後期課程2年)  
 神戸大学国際人間科学部卒業  
 研究テーマ:「3DCGと音声認識を用いた外国語学習環境の構築」

私は大学4年間、神戸大学に通いながら、塾講師として集団指導のアルバイトをしてきました。集団指導の現場では、一人の教師が複数の生徒を相手にするため、スピーキングの指導が特に難しい課題となっています。そこで、コンピューターを活用した語学学習支援に興味を持ちました。コンピューターを用いたスピーキング指導にはどのようなシステムが最適かを検討し、先行研究を参考にしながら、自分でプログラムを試作して実行し、その結果を検証しています。

本コースでは、定期的に集団指導が行われます。その際には、ポスター発表や口頭発表を通じて自身の進捗状況を報告し、所属する教員や他の学生からフィードバックを受け取ることができます。コースにはコーパス言語学、教育工学、会話分析、認知言語学、歴史語用論など、多岐にわたる専門分野の教員が在籍しており、頂いたアドバイスは新たな視点を得るのに役立てることができます。

私は学部時代にプログラミングの経験がありませんでしたが、独学で学びながら、授業やゼミで分からないことがあれば積極的に質問し、成長してきました。文系出身者や理系出身者に関わらず、このコースに所属してから学ぶことができます。また、研究で何か困っている場合でも、教員や先輩から適切なサポートを受けることができ、また同期の仲間たちと協力できる良い環境が整っています。外国語教育に関心を持つ皆さんと共に研究ができることを楽しみにしています。

修了学生からのメッセージ



**齋藤 景子さん**  
 (2021年度博士前期課程修了)  
 研究テーマ:「日本人英語学習者の論証文における熟達要因に関する質的調査」  
 現在、東京大学教育学部附属中等教育学校英語科教諭

私は中高一貫校で英語の教員をしています。授業中、複数の生徒が同じ箇所ですべて同じようなエラーを起こしていたり、習熟度によってつまづきに傾向の違いがあると感じたりします。また、授業がうまく生徒の英語習得につながったと思うときもあれば、失敗したと思うこともあります。

そのようなときに必ず思い出すのが、大学院での学びです。本コースでは、外国語教育分野を満遍なく学ぶことができます。研究に対して具体的なイメージを持っていなかった私も、講義や演習を通じてこの分野の地図を思い浮かべられるようになりました。また、年5回の集団指導によってコースの先生方から頻繁にご助言をいただき、自身の研究テーマである日本人英語学習者の論証文における熟達要因について、多くの先生方に支えていただきながら論文を完成させ、教員としての学術的なアイデンティティを確立することができました。

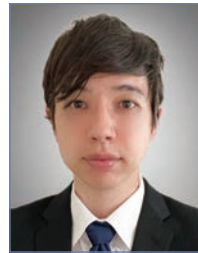
2年間の学びにより、生徒の困難感の解消や授業改善を試みる際に、外国語教育分野の地図を頭のなかで開き、どこに根を張っているのかを考えることができています。また、自身の専門分野となった作文をはじめ、根拠のある自信に基づいて指導することができています。これは生徒との信頼関係にも影響していると感じます。大学院に行かなくても教員になることはできますが、教員としての生き方をさらに充実させたい方には本コースをお勧めしたいです。



**陳 迪さん**  
 (博士後期課程3年)  
 中国上海外国語大学国際文化交流研究所修士課程修了  
 研究テーマ:「日本語コーパスを用いた漢語動名詞の用法解明と日本語教育への応用」

私は学部時代から中国語学と国語教育について学び、修士課程に進学し、日本語を母語とする中国語学習者向けの中国語教育を研究・実践する中で、言語データを集めた「コーパス」というものを知りました。コーパスを用いて人間の言語運用の実態を調査し、計量的手法を踏まえて考察することで、言語の特性や学習者の言語習得の特徴をより客観的に明らかにすることができます。私は現在、コーパス言語学の手法に基づき、日本語母語話者や学習者における漢語動名詞の頻度や用法を調査し、日本語教育への応用を目指しています。

博士後期課程に進学する前に、自分が日本語を専攻していないことに不安を感じていましたが、毎週のゼミで、指導教員の先生からの丁寧なフィードバックを頂けるだけでなく、優れた研究者になるためのスキルをトレーニングすることができます。さらに、本コースの一つの特徴である集団指導があり、コーパス言語学・教育工学・音声学・会話分析・歴史語用論など、様々な専門分野のコースの先生方や、他の学生たちの前で、研究の進捗状況を定期的に発表します。これにより、指導教員以外の先生方からも自身の研究に関する様々なコメントやアドバイスを頂けるので、新たな方向性を発見することができます。このような良い環境で、大変充実した研究生活を送っています。



**Zachary Nanbu さん**  
 (2022年度博士後期課程修了)  
 神戸大学国際文化学研究所博士課程前期課程修了  
 研究テーマ: Second Language Pedagogy and Use in an English Village: Interactional Practices and Sequential Structure  
 現在、同志社大学特任助教

During my time as an undergraduate at the University of Hawaii at Hilo, I began working as an ESL tutor and discovered that I enjoyed teaching and learning about language. After graduating with a bachelor's degree in linguistics, I moved to Japan to further my education and learn more about second language pedagogy. Following a series of serendipitous events, I found myself in Kobe University's master's program under the guidance of Tim Greer where I began using Conversation Analysis (CA) to examine the interactional practices of language learners.

After completing the master's program, I opted to continue furthering my research by entering Kobe University's Ph.D. course where I used CA to examine naturally occurring interaction among language learners and teachers at an English village.

Kobe University's master's and Ph.D. courses provided me with an excellent environment for developing as a language scholar. The Shudan Shidou (group guidance) process was invaluable to my research, providing exposure to concepts and ideas from a wide variety of theoretical perspectives. Regularly presenting my own work helped me to hone my presentation skills, and the expert feedback I received from the professors and my peers was immensely useful for refining my study. Although completing a dissertation may seem daunting, the clear structure and milestones that this course provides made it easy to stay on track.

Q&A

英語以外の外国語教育を学ぶことはできますか？

本コースでは、英語・日本語・中国語・ドイツ語の研究指導も行っており、所属学生もこれらの言語を専攻し、分析しています。多言語の視点から外国語教育を考えられるのも本コースの特徴の1つです。

英語教員免許を取得できますか？

学部時代に一種免許状を取得している場合は、博士前期課程で指定された科目の単位を取得することによって専修免許状を取得することができます。また、一種免許状を取得していない場合は、大学院に在籍しながら学部科目を並行履修して、教員免許(一種免許状)取得に必要な不足単位を補うことが可能です。

学部時代の専門が語学や教育学ではないのですが、本コースで研究していいのでしょうか？

これまでに在籍していた院生の学部時代の専門は、言語学・言語教育学のみならず、文学・法学・経済学・理工学などさまざまです。語学力と語学教育への熱意があれば、大学院において新たに外国語教育の研究を始めることも十分に可能です。本コース

では、導人的な講義を体系的に開講しているため、2年間で修士レベルの知識や分析スキルを身につけ、さらに、博士課程で研究を深めることができます。

留学経験者は多いのでしょうか？

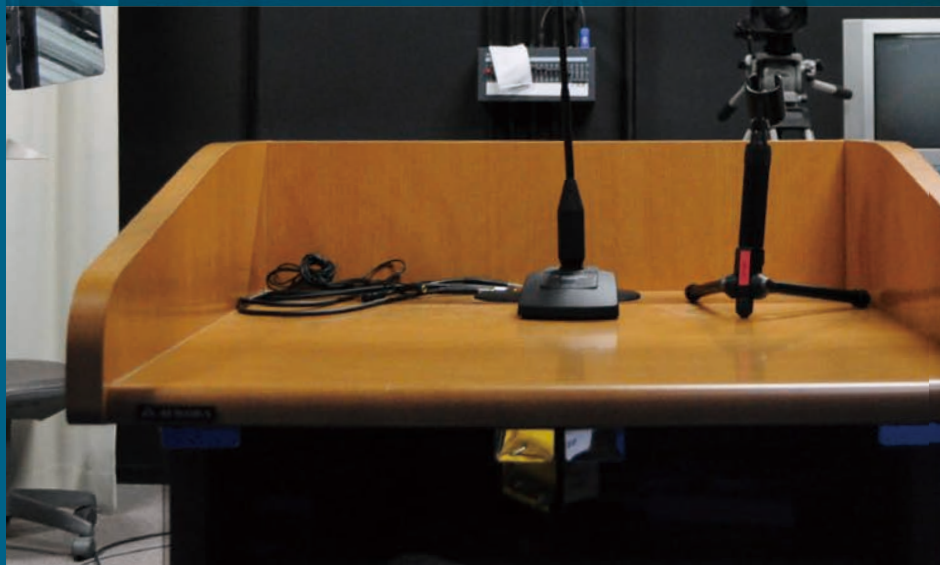
在籍中に、米国、ドイツ、豪州などで留学を経験した学生も多くいます。また、韓国で実地調査を行った学生もいました。院生が留学しても、指導教員はメールなどで頻りに連絡をとり、きめ細やかな指導とサポートを提供しています。過去の在籍者には留学生も多く(中国、米国、モーリタニア等)、国際色豊かなコースです。

修了後の進路状況はどうか？

教育職への就職が非常に多くなっています。前期課程修了者は、全国の公私立の高校・中学校の英語教諭として活躍しており、後期課程修了者は国公立大学や海外の大学の教員に就職しています。この他にも、民間企業の海外部門で活躍する修了生もいます。また、小中高や大学で教員として勤務しながら本コースで研究活動に取り組んでいる学生もいます。

連携講座（博士後期課程に設置）

# 先端コミュニケーション論コース



ますます増大する文化摩擦問題や、近い将来われわれが直面することになるであろうロボットとの共存問題は、コミュニケーションの問題に他なりません。人間のコミュニケーションとはどういうもので、そこにどのような文化差があるのか。言語・パラ言語・非言語行動そして身体は、コミュニケーションの中でそれぞれどのような役割を果たすのか。それはわれわれの外国語学習にどのように活かせるか。先端コミュニケーション論コースは、最新の技術や機器などを駆使してこのような問題を解明し、新しいコミュニケーションの可能性を切り開こうとするコースです。

連携先：株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ATR）



**進路実績** 甲南大学教授、産業技術総合研究所、富山県立大学准教授、国立情報学研究所准教授、国際電気通信基礎技術研究所、PD研究員他

**在籍学生数**（後期課程） 1名（2023年度）

**論文テーマ例**

- 外国語学習における知覚訓練と語彙訓練の順序効果
- 英語音声の韻律知覚に及ぼす諸要因の研究
- 外国語音声学習における音響的・意味的文脈効果の研究

## 所属教員の紹介

**内海 章 客員教授 先端コミュニケーション論特別演習**

画像認識・視線検出・マンマシンインタフェースなどの分野を主として研究しています。

**住岡 英信 客員准教授 先端コミュニケーション論特別演習**

人とロボットのコミュニケーションの分野を主として研究しています。

**石井 カロス寿憲 客員教授 先端コミュニケーション論特別演習**

マルチモーダル音声コミュニケーション、パラ言語、人ロボット対話インタラクションなどの分野を主として研究しています。

# 日本語教師養成サブコース

## JAPANESE LANGUAGE TEACHER TRAINING PROGRAM

本研究科では、博士前期課程の学生を対象に「日本語教師養成サブコース」を設置しています。これは、「外国語としての日本語教育」の基礎知識を体系的に学ぶための副専攻課程相当のコースです。追加の履修条件を満たせば、博士後期課程の学生も履修可能です。

所属コースにかかわらず、すべての本研究科学生がサブコースを履修できます。所定の科目群の中から必要な単位を修得して申請を行うと、修了時に研究科から公式の「修了認定書」が発行されます。

本研究科で学ぶ学生の中には、研究科で身につけた専門分野の知見や国際的な視野を活かし、海外で働くことを希望する人、そして実際に海外で働く人が多くいます。その際、現地では、日本語・日本文化の紹介や指導を求められる場面も少なくありません。この意味で、自身の専門分野に加え、日本語教育の知見を持つておくことは、海外でのキャリア形成にも有益です。また、近年日本国内では外国人居住者が増加・多様化しています。本研究科の研究領域には、彼らの直面する問題やそれをふまえた日本社会の課題の研究も含まれます。このような研究を行おうとする人たちにとっても、日本語教育について学ぶことは、視野を広げ、研究への示唆を得る機会になるかもしれません。

将来、日本語教師としての就職を目指す方はもちろん、自身の国際的なキャリアや研究の可能性を広げたいという方にも、ぜひ本コースの履修を検討してもらいたいと思います。

なお、本研究科は「登録日本語教員養成機関」「登録実践研修機関」として文部科学省に申請中です。ただし、文部科学省における審査の結果、予定した研修・養成課程が開設できない可能性があります。また、履修の検討の参考になる修了生のインタビュー動画や、本コース履修生限定の講義動画アーカイブも用意しています。



**名前** 中村 堯さん  
**所属コース** 2023年度感性コミュニケーションコース博士前期課程修了  
**研究テーマ** 関西弁との接触による言語変化  
現在、神戸大学(非常勤職員)、コミュニカ学院(日本語非常勤講師)に勤務

学部生のころに英語の教員免許を取得した私は、もともとことばを教えることに興味を持っていました。大学院に進学するまでは、日本語教師養成サブコースの存在すら知らず、進学後になんとか履修し始めました。実際にサブコースに関する授業を受けてみると、日本語教育のおもしろさにどんどん惹かれてしまい、いつかは日本語を教えてみたいと思うようになりました。在学中にはドイツのハンブルク大学日本学科に3ヶ月間派遣してもらい、インターンシップ生としてハンブルク大学で日本語教育に従事する機会がありました。インターンシップでは、主に授業見学や指導補助を行いました。実際に90分間の授業を1人ですることでもでき、ドイツの学生とも充実した交流をすることができました。

サブコースを履修したことで、日本語を教えるという新たなスキルが得られ、自らのキャリアの幅が広がったと思います。修士課程修了後は大学職員として大学に貢献しようと思っていましたが、ドイツでのインターンシップを経て考えが変わり、今後も大学院で研究と日本語教育の勉強を続けていくつもりです。今は日本語教育に興味がない方でも、サブコースを履修してみると私のように人生が変わるかもしれません。サブコースに登録して日本語教育を学ぶことで、きっとみなさんの視野がさらに広がると思いますので、ぜひ一度サブコースの履修を検討してみてください。



**名前** 南波 真知さん  
**所属コース** 2023年度言語コミュニケーションコース博士前期課程修了  
**研究テーマ** 在米国際結婚家庭における継承日本語教育に関する事例研究—補習授業校と家庭での日本語支援の役割—  
現在、神戸大学国際文化学研究所博士後期課程1年、日本語学校にて日本語非常勤講師

日本語教師養成サブコースの講座を受講したことで、日本語教育に携わるために必要となる知識と実践への心構えを多角的な視点から深く学ぶことができました。

私は、新型コロナウイルス禍の影響で留学生の入国制限措置がとられた年に日本語教師の資格を得ました。しかし日本語教師としての実践を積む前に、日本語教育分野の知識について、さらに深く学びたいという気持ちから日本語教師養成サブコースがある国際文化学研究所に入学しました。

本サブコースでは、日本語教育文法や日本語教育方法論、教科書研究、第二言語習得論などの多岐にわたる科目を受講することができます。そして、本コースと一緒に受講した留学生たちや現役日本語講師を始めとする教育関連の経験者たちとのディスカッションや、ピアラーニングの実践を通じて、外国語習得としての日本語に対する多様な立場からの視点に触れるという貴重な経験を得ることができました。

私自身は在学中に日本語学校で非常勤日本語講師を始めましたが、授業の実践では毎回内容についての反省点が尽きません。課題の解決は一朝一夕にはできるものではありませんが、本コースの受講を通して得た知見を活かして、少しでも日本語学習者の役に立つような授業設計と実践を目指して奮闘中です。